#52
P. O. F. I. LIBRARY
MAR 9 1959
FISH & WILDLIFE SERVICE

鮪漁業　第五十二号　昭和三十三年八月十日発行　（毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可

# 鮪漁業

# Tuna Fishing

— 航海中の漁具手入作業 —

THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY JAPAN

鮪漁業研究会

No. 52, 1958

暑中御伺　— 1958年盛夏 —

倉敷ビニロン

# クレモナ万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網

くさらない
使いやすい
値も安い

## 倉敷レイヨン株式会社

本　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

---

◇新時代の冷凍機◇

（高速多気筒）

# ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

## 株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川区東品川5の61
電話大崎（49）代表2171—9番（49）2170.6004番 営業部直通
営業所　大阪市北区梅田町47（新阪神ビル）
電話（36）代表 0974—5（36）2171—9（内線350—1）

# ―目　次―

鮪漁船紹介　愛媛丸　第15全功丸
鮪漁場図　（昭和32年12月操業）
三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和32年12月現況）……1
1. 調査の概要……1
2. 漁況の概要……1
3. 各海区の漁況……2
A. 赤道以南140°W以東漁場……2
B. 赤道以北180-140°Wの漁場……3
C. 赤道以南180-140°Wの漁場……4
D. 北部太平洋漁場……6
E. 旧南洋庁沿海漁場……7
F. ソロモン以南漁場……7
G. 東部印度洋漁場……10
H. 中部印度洋漁場……11
月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（昭和32年12月操業分）別表1……14
月別，漁場別，鮪類体長組成表（昭和32年12月操業分）別表2……18
「いわゆる公海自由」と真の「公海自由」との相違について
米国マイアミ大学海洋研究所海外嘱託　酒井　謙二……25
東部太平洋0°～10°S，140°～110°W付近のキハダとメバチの漁況変化及び資源分布
神奈川県水産試験場　会員　中込　淳……29
相模丸の米国太平洋水産研究所見学報告より……30
海のおとぎばなし……まえだひろし……31
業界メモ……32
鮪類標識放流について……32

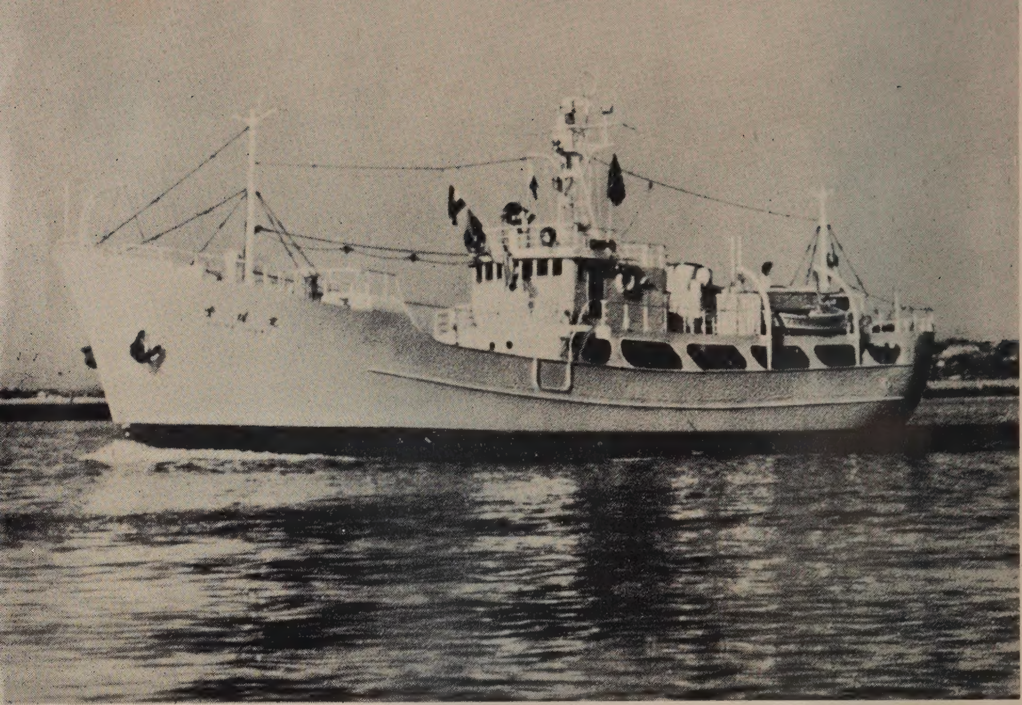
―表紙写真　海上電機 渡辺氏提供―

漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本社　大阪市北区中之島3の3　（朝日ビル）TEL. 北浜（23）9736―7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL. 銀座（57）6804.6810.6811
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL. 清水（2）3507
三崎サービスステーション三浦市三崎町西野34金指造船所三崎出張所内TEL.三浦2851

施工船名
第15全功丸
第7岩地丸
第1広島丸
第11清勝丸
多胡丸
第12福生丸
（其の他約五百隻）



愛　媛　丸

| | | |
|---|---|---|
| 船主 | 愛媛県 | |
| 造船所 | 株式会社　山西造船鉄工所 | |
| 主要寸法 | | 長32.70m×幅6.60m×深3.30m |
| 総屯数 | | 214.51屯 |
| 魚艙容積 | | 113.50m³ |
| 燃料油艙 | | 91.70m³ |
| 速力 | | 最大　10.78節 |
| 主機 | デーゼル450HP（赤阪鉄工） | 1基 |
| 補機 | デーゼル62.5HP，30HP | 各1基 |
| 無線 | 250W，50W（日本無線） | 各1基 |
| 冷凍装置 | フレオンF12　直膨式　25HP | 1基 |
| レーダー（東京計器），ロラン（日本無線），方探（光電），魚探（海上電機），M.C.P.（東京計器）其の他 | | 各1式 |
| 竣工 | | 昭和32年12月5日 |


# 株式会社　赤阪鉄工所

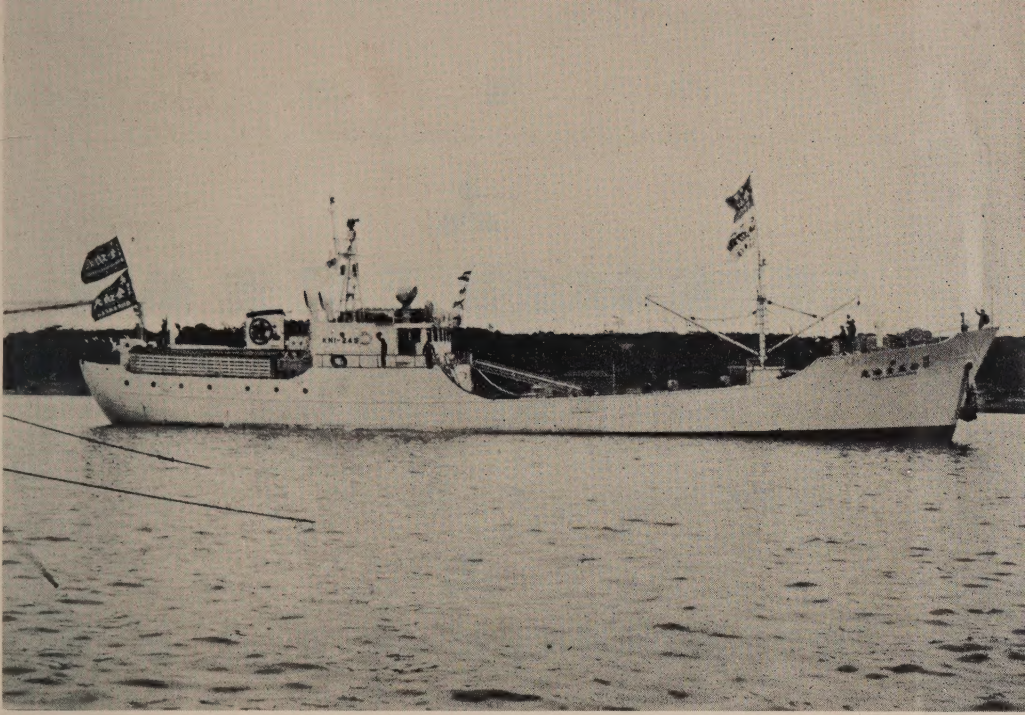
本社　東京都中央区銀座一ノ三（千成屋ビル）電話京橋（56）4902～3
大阪出張所　大阪市東区北浜四ノ三八　電話北浜（23）4790
工場　静岡県焼津市中港町五九四　電話（焼津）2121～5

暑　中

最新の技術
穂高の

穂高通信工

本社工場　東京都新宿区
大阪営業所　大阪市西区京町堀
長野工場　長野県南安曇
代理店　小樽・函館・八戸
銚子・三崎・清水



第 15 全 功 丸

| | | |
|---|---|---|
| 船　主 | 奥津水産株式会社（三浦市） | |
| 造船所 | 株式会社　金指造船所 | |
| 主要寸法 | | 長46.75m×幅7.80m×深4.00m |
| 総屯数 | | 466.02屯 |
| 魚艙容積 | | 約75,000貫 |
| 燃料油艙 | | 約250KL |
| 速力 | | 最大　12.00節 |
| 主機 | デーゼル　900IP（赤阪鉄工） | 1基 |
| 補機 | デーゼル　200IP，100IP | 各1基 |
| 無線 | 250W，75W（穂高通信） | 各1基 |
| 冷凍装置 | 日新興業設計施工　35.3，22.2<br>アンモニア直膨式 14.0冷凍トン | 各1基 |
| レーダー（安立），方探（光電），魚探其の他 | | 各1式 |
| 竣工 | | 昭和33年5月16日（改装） |

御　伺

— 1958 —

高性能を誇る
機を

業株式会社

—6　TEL (95) 2595・6219
ビル　TEL (44) 5792・4109
79　TEL（穂高）6 1
巻・塩釜・小名浜・那珂湊
・下関

各種鋼製漁船の建造並に修理

# 株式会社　金指造船所

| | | |
|---|---|---|
| 本社工場 | 清水市三保4010—19 | 電話　清水(2) 4111～5 |
| 塚間工場 | 清水市三保弁天492 | 電話　清水(2) 5151～2 |
| 東京事務所 | 東京都港区芝田村町3ノ4 | 電話 芝(59)1306～8 |
| 三崎出張所 | 三浦市三崎町西野34 | 電話（三浦）2851 |

# 暑　中　御　伺　— 1958年盛夏 —


## 三菱造船株式会社 下関造船所

下関市大字彦島1130番地ノ10
電話代表番号下関(2)4221番

三菱横浜可変ピッチプロペラ

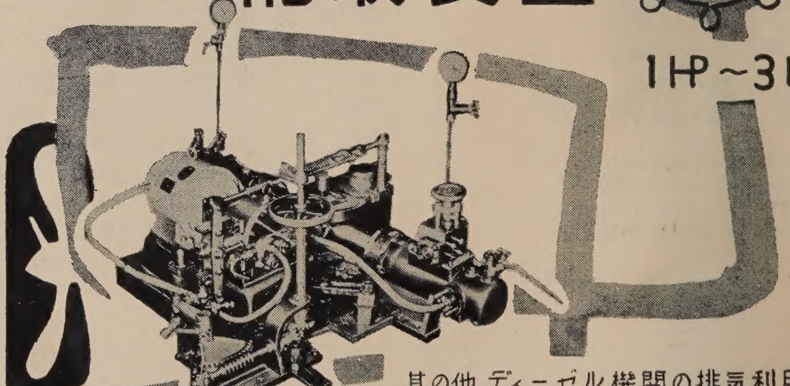
## 三菱日本重工業株式会社　横浜造船所

取締役所長　室　谷　宗　則

横浜市西区緑町3丁目4番地の2　電話本局(2)2931番

## 川崎ヘルショウ式
## 電動油圧　舵取装置

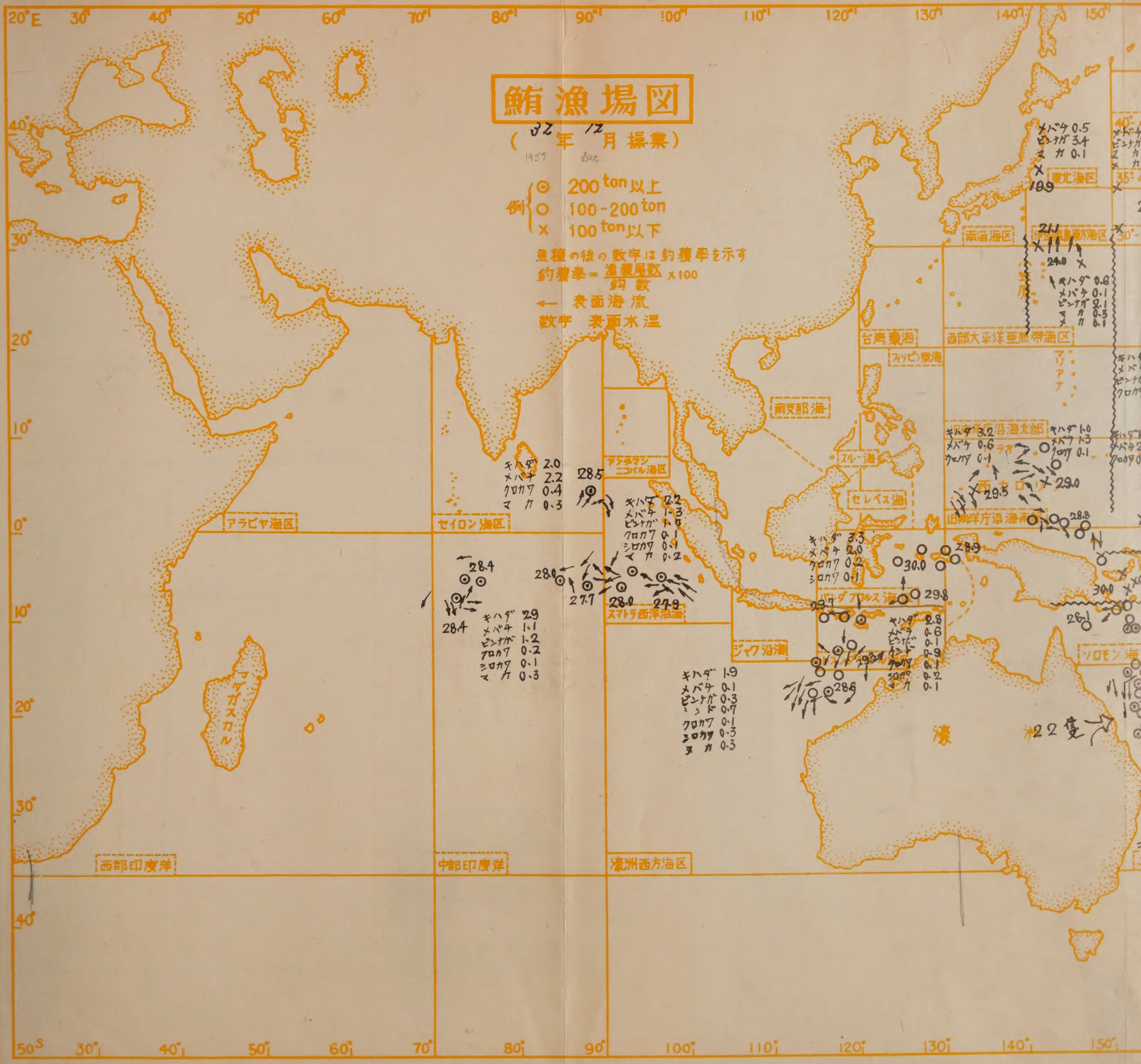
1HP～3HP



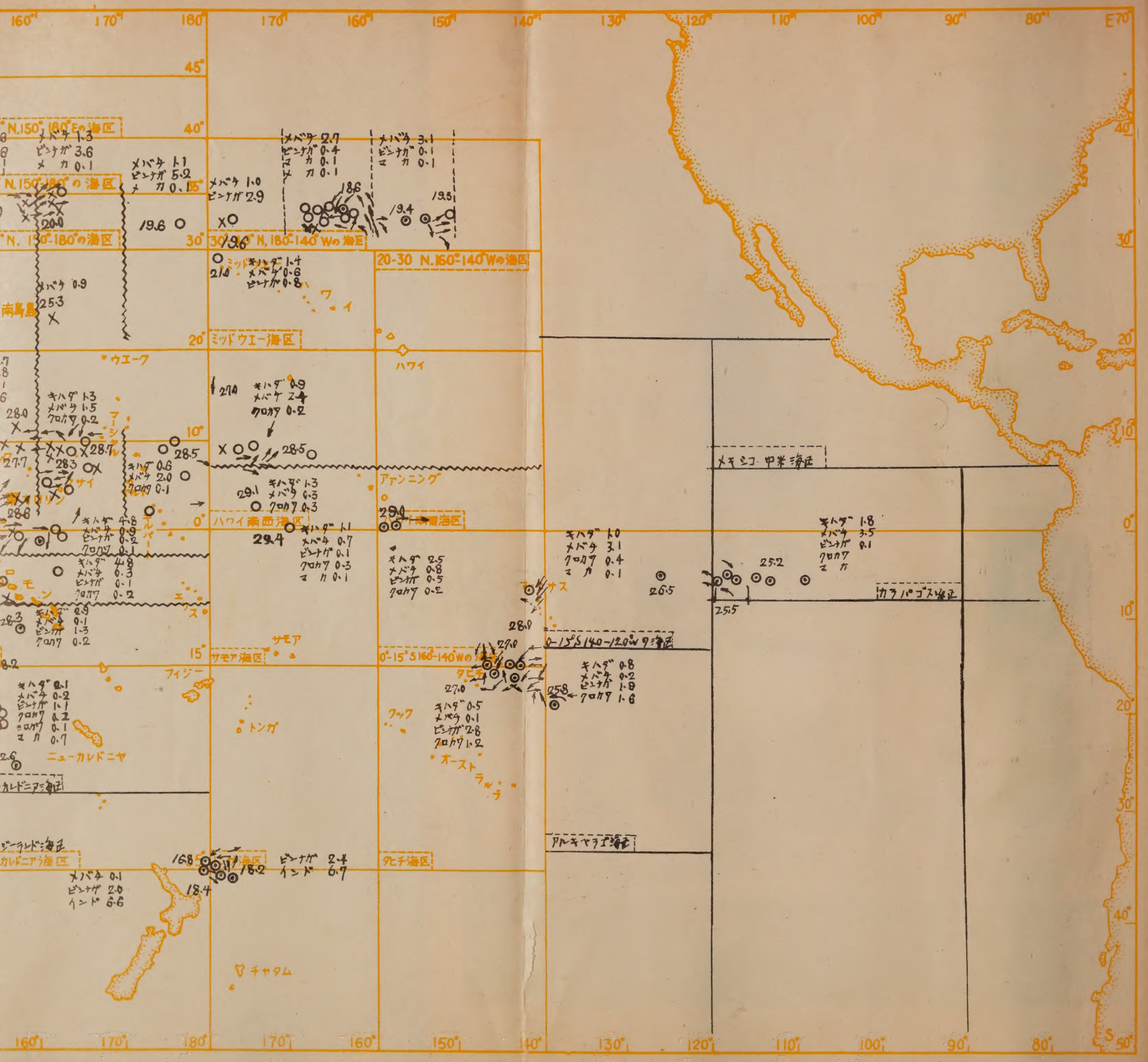
其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

## 川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四(電)湊川(5)7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電)(59)6101
(本紙名記入の上御一報下されば カタログ御送附致します)



鮪漁場図
( 32 年 12 月操業)
1957 Dec.
例
◎ 200 ton 以上
○ 100-200 ton
× 100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数/釣数×100
← 表面海流
数字 表面水温
アラビヤ海区
セイロン海区
アンダマン・ニコバル海区
スマトラ西洋沿海
ジャワ沿海
バンダ・アルス海
南支那海
スルー海
セレベス海
台湾東海
フィリピン東海
西部太平洋亜熱帯海区
南海海区
東北海区
マリアナ
ソロモン海
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
マダガスカル
濠
キハダ 2.0
メバチ 2.2
クロカワ 0.4
マカ 0.3
キハダ 2.9
メバチ 1.1
ビンナガ 1.2
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マカ 0.3
キハダ 1.9
メバチ 0.1
ビンナガ 0.3
クロカワ 0.1
シロカワ 0.3
マカ 0.3
メバチ 0.5
ビンナガ 3.4
マカ 0.1



160° 170° 180° 170° 160° 150° 140° 130° 120° 110° 100° 90° 80° E70°
45° 40° 30° 20° 10° 0° 10° 15° 20° 30° 40° S 50°
N.150°-180°Eの海区
メバチ 1.3
ビンナガ 3.6
メカ 0.1
N.150°-180°の海区
メバチ 1.1
ビンナガ 5.2
メカ 0.1
メバチ 1.0
ビンナガ 2.9
N.150°-180°の海区
N.180°-140°Wの海区
メバチ 2.7
ビンナガ 0.4
マカ 0.1
メカ 0.1
メバチ 3.1
ビンナガ 0.1
マカ 0.1
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー
キハダ 1.4
メバチ 0.6
ビンナガ 0.8
ハワイ
南鳥島
メバチ 0.9
ミッドウエー海区
ウエーク
ハワイ
キハダ 1.3
メバチ 1.5
クロカワ 0.2
キハダ 0.9
メバチ 2.4
クロカワ 0.2
マーシャル
キハダ 0.6
メバチ 2.0
クロカワ 0.1
キハダ 1.3
メバチ 0.3
クロカワ 0.3
アァンニング
ハワイ南西海区
キハダ 1.1
メバチ 0.7
ビンナガ 0.1
クロカワ 0.3
マカ 0.1
キハダ 2.5
メバチ 0.8
ビンナガ 0.5
クロカワ 0.2
キハダ 1.0
メバチ 3.1
クロカワ 0.4
マカ 0.1
キハダ 1.8
メバチ 3.5
ビンナガ 0.1
クロカワ
マカ
メキシコ・中米海区
カラパゴス海区
サモア
サモア海区
0°-15°S 160°-140°Wの海区
0-15°S 140-120°Wの海区
タヒチ
キハダ 0.8
メバチ 0.2
ビンナガ 1.8
クロカワ 1.6
キハダ 0.5
メバチ 0.1
ビンナガ 2.8
クロカワ 1.2
フィジー
トンガ
クック
オーストラル
ニューカレドニヤ
キハダ 0.1
メバチ 0.2
ビンナガ 1.1
クロカワ 0.2
マカ 0.7
カレドニア海区
ジーランド海区
カレドニア海区
ビンナガ 2.4
インド 6.7
メバチ 0.1
ビンナガ 2.0
インド 6.6
タヒチ海区
アルキヤラゴ海区
チャタム

# 三崎他二港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察

（昭和32年12月現況）

三 崎　　鮪漁業研究会　　（調査研究部）
　　　　　神奈川県水産試験場　　（調　査　部）
東京，燒津　南海区水産研究所　　（遠洋資源部）

## 1　調査の概要

昭和32年12月操業分として調査した鮪延縄船数は、三崎65，東京45，燒津46，計156隻で、このうち体長測定船数は71，調査海区数は26である。

## 2　漁況の概要

（キ　ハ　ダ）

ガラバゴス海区および0—15°S，140—120°Wの海区のキハダはともに減少しているが、ガラバゴス海区においてはまだやや好漁、0—15°S，140—120°Wは不漁である。ハワイ南西海区は5°N以北、以南の両海域とも冬の不漁期に入り、0—15°S，160—140°Wでは11月より増加して上昇の傾向を示し、例年より早く増加過程に入つたものかも知れない。タヒチ、サモア両海区は不漁、南洋北部の調査船1隻は好漁であるが、南洋南部各海域は先月にひき続いて不漁、ソロモン海区0—5°Sの海域は先月より冬の高率期に入り、5—10°Sの海域では9月からの好漁が続き、10—15°Sにおいてはやや好漁である。南方のニユーカレドニア海区西部では11月の不漁から僅か恢復、バンダ・フロレス海区は11月のいちじるしい高率から半減したがなお好漁で、小スンダ・チモール海区においては11月より急増して好漁、スマトラ西岸沿海は先月の中程度の漁からやや低下してこの海区としては不漁となつた。濠洲西方海区はやや不漁でセイロン海区も不漁、8ヶ月ぶりに調査された中部印度洋海区はやや低率である。

（メ　バ　チ）

ガラバゴス海区は11月から恢復して好漁、0—150S，140—120°Wの海区も同様に好漁、30—40°N，180—140°Wの海区は上昇期にあり、170—180°Wの海域を除いて高率ミッドウエーは低率で1月頃から上昇が見込まれ、ハワイ南西海区5°N以北は上昇して好漁となりつつあり、5°N以南の海域は不漁、0—15°S，160—140°Wの海区およびサモア海区は好漁で、30—35°N，150—180°Eの海区は東部でやや好漁、西部太平洋亜熱帯海区140—150°Eは不漁であるが、160—170°Eおよび南洋北部150—160°Eの海域は好漁である。南洋南部は各海域とも高率で、130—140°Eの海域のみが9月から低減過程にあつて低率である。ソロモン海区は0—5°Sの海域が僅か高く、ニユーカレドニア、ニユージーランド両海区は低率、バンダ・フロレス海区は11月の不漁から恢復し

て10月とほぼ同率となり好漁、小スンダ・スマトラは11月の低率よりやや増加、スマトラ西岸沿海は好漁の後期に入り濠洲西方は不漁、セイロン海区は近来にない高率、中部印度洋は中程度の漁である。

(ビンナガ、インドマグロ)

ビンナガはアルキペラゴ海区で好漁、30—40°N, 180—140°Wの海区180—170°Wの海域においても好漁、0—15°S, 160—140°Wの海区東部は先月のいちじるしい高率に比して低率がめだち、タヒチでは恢復してやや高く好漁、サモアでは低調で、チヤタム海区北西部は10月より上昇過程にあつて好漁、30—35°N, 150—180°Eの海区の冬ビンは盛漁期で東寄りに高率、東北海区の1隻も好漁である。西部太平洋亜熱帯海区では、140—150°E の海域で好漁期前の急増がみられ、ソロモン海区においては、10—15°S の海域西部で10月から増加している。ニユーカレドニアのビンナガは、11月から倍増したが、冬の低率期にある。ニユージーランド海区北東部では、チヤタム海区と同様に好漁、スマトラ西岸沿海海区は盛漁期であるがやや好漁、濠洲西方海区は不漁で、中部印度洋においては比較的活況を呈している。

インドマグロは、チヤタム海区において10月以來の好況を続けつつあり、ニユージーランド海区は低減過程に入つているが、なおチヤタムと同率で好漁、小スンダ・チモール沿海は不漁期で低率、濠洲西方海区は11月より僅か増加し、盛漁期であるがまだ低い。

(ク ロ カ ワ)

ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°W の海区は、ともに増加しつつあるが低調でアルキペラゴはさらに好漁、ハワイ南西海区 5°N 以北および 5°N 以南は低率期、0—0—15°S, 160—140°Wの海区は好漁とならず、タヒチ海区は高率が続いている。サモア海区は低率、南洋北部150—160°Eの海域はやや好漁、南洋南部は各海域とも不漁、ソロモン海区は10—15°Sの海域西部が僅か高いのみで、ニユーカレドニアでは盛漁期であるが低率、スマトラ西岸沿海、濠洲西方両海区は不漁である。

(その他のカジキ類)

シロカワは、ソロモン海区10—15°Sの海域西部で、11月より低率となり、濠洲西方海区でも僅か低くなつたがまだやや好漁である。

マカジキは、西部太平洋140—150°Eの海域で高率となり、ニユーカレドニア海区は盛漁期で特に好漁、スマトラ西岸沿海、濠洲西方海区、セイロン海区はともにやや好漁であるが、濠洲西方海区では11月のいちじるしい高率から激減している。セイロン海区、中部印度洋海区も好漁であつた。

メカジキは、30—35°N, 150—180°E の海区で好漁を示し始め、150—160°Eの海域から高率となつている。33年1月には増加が見込まれる。

バショウは、ソロモン海区で高率、5—10°Sの海域ではとくに高い。

## 3 各海区の漁況

A. 赤道以南 140°W 以東漁場

（ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区、アルキペラゴ海区）

この漁場における12月の調査船は８隻で、うち６隻はガラパゴス海区南西部で東西に廣く操業し、活況を呈している。0—15°S, 140—120°W の海区では海区中央部東寄りの１隻、アルキペラゴ海区では11月に続いて北西方海域で１隻が調査されていて、水温は11月より1°程高くなつている。ガラパゴス海区の漁場における海流は西流で南下流もあり、西部では東流もみられた。

（キ　ハ　ダ）

全般的にいつて漁況は低下しているが、ガラパゴス海区は他海区に比して高く1.80を示し、0—15°S, 140—120°W の海区は不漁期で低率、アルキペラゴ海区は11月より僅か増加して0.78であるが、この附近の釣獲率としはそれほど低率ではない。ガラパゴス海区のキハダを各船別に比較すると、漁場の西よりが低率で、東よりに操業した船は2.00以上の成績である。

体長組成は、ガラパゴス海区についてのみ調査され、141cm 以上の大型が多く、とくに141—160cm のものが顯着に出現して65%を占めている。

（メ　バ　チ）

ガラパゴス、0—15°S, 140—120°W の両海区における釣獲率は、ともに11月から恢復して高く、アルキペラゴでは低い。ガラパゴス海区におけるメバチも、漁場の東側が西側より高く、4.50程度の率を得ている船がある。

ガラパゴス海区の魚体は大型で、161—170cmに山（モード）がある。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ガラパゴス海区では低率、0—15°S, 140—120°W の海区では漁獲なく、アルキペラゴ海区では11月とほぼ同率の1.87を示して、次第に低減過程に入るものと思はれる。

（ク　ロ　カ　ワ）

各海区とも僅かながら上昇中で、ガラパゴス海区は0.27とまだ低いが、各船は平均した漁獲を得ている。0—15°S, 140—120°W の海区では0.40, アルキペラゴ海区は高率期で1.65と最も高い。ガラパゴス海区のクロカワは、別表２にみるとおり小型から大型まで廣く分散しているが、船別に見ると、東よりの漁場で操業した船に小型魚の多い傾向がみられる。

（その他のカジキ類）

シロカワ、マカジキ、キカジメの釣獲率には、何れも大した變動はない。ガラパゴス海区のシロカワは、他海区に比して大型が多いようである。

B．赤道以北 180—14°W の漁場

（30—40°N, 180—140°Wの海区、ミッドウエー海区、
ハワイ南西海区 5°N以北、ハワイ南西海区 5°N以南）

30—40°N, 180—140° W の海区における調査船は、10月８隻、11月19隻であつたが12月は16隻が30—35°Nの間に180°から150°W にわたつて操業し、その主漁場は170—160°Wの海域で11隻が集中している。水温は170°W以東の海域では11月より低下して

19°C前後となつた。ミッドウエー海区ではミッドウエー島附近で1隻、ハワイ南西海区5°N以北では5—10°Nの間に東西方向に4隻が操業し、5°N以南では11月と同位置附近で1隻を調査した。海流については漁場圖参照のこと。

（キ　ハ　ダ）

30—40°N, 180—140°Wの海区では各海域とも低率、ミッドウエーの1隻は1.36と好漁を得た。ハワイ南西海区5°N以北のキハダは夏季の高率2.56から低下しつつあり12月は0.88を示しているが、33年に入ればなお低下が見込まれる。5°N以南の海域も低率期で、11月からさらに減少して1.27となつた。從來と同様に、5°N以北は以南より低率である。

30—40°N, 170—150°Wでは小中型が多く、ミッドウエー北西部では小型が大部分を占め、ハワイ南西海区5°N以北では111—120cmの小型にモードがあつて中型魚も多く、100cm以下の若年魚はみられず、11月より型が大きくなつた。

（メ　バ　チ）

30—40°N, 180—140°Wの海区は上昇過程にあつて9月以降漸増を続けている。海域別に見ると、150—160°Wは3.15, 160—170°W2.68で11月より増加、170—180°Wの海域のみは0.97でとくに低くなつた。從来の傾向からみて、2月頃まで釣獲率の増加が期待される。ミッドウエー海区のメバチは一昨年冬季と同様の不漁で0.64の低率30年1月および32年1月を頂点として2.50程度の率を示した好漁と対照的である。ハワイ南西海区5°N以北では上昇に転じて12月2.38と急増、5°N以南の海域における1隻は0.33と極めて低率であつた。

30—40°N, 180—140°Wの海区におけるメバチは、11月よりさらに小型となり、110cm以下の若年魚が19.2%に増加して、メバチの魚体が小さくなる傾向を示している。ハワイ南西海区5°N以北の体長組成は、121—130cmにモードがあつて42.6%, おおむね11月と同様の組成である。

（ビ　ン　ナ　ガ）

11月、30—35°N, 180—170°W附近にあらわれ始めたビンナガは、12月に入つてその主漁場が東経に入り、この海域では2.86とやや増加するにとどまつた。また、ミッドウエー海区北西部でも僅か出現している。

30—40°N, 180—140°Wの海区における体長組成は11月と同様である。

（クロカワ、マカジキ）

ハワイ南西海区5°N以北のクロカワは完全な低率期に入つて0.17と減少、周期的変化を示している。5°N以南においては、9月から11月まで續いた0.53の好漁が、12月には0.33と低下した、この海区では、33年初夏まで好漁は期待できないであろう。

30—40°N, 180—140°Wの海区におけるマカジキの釣獲率は低く不漁期である。

### C. 赤道以南180—140°Wの漁場

（0—15°S, 160—140°Wの海区、タヒチ海区、サモア海区、チヤタム海区）

0—15°S, 160—140°Wの海区では、11月に続いてマーケサス諸島の西方で1隻と海

区北西部の0°, 180°附近の2隻、計3隻を調査した。タヒチ海区では14—20°S, 148—140°Wで5隻が操業し、サモア海区は2°S, 170°Wの1隻、チャタム海区ではニュージーランドのノース・アイランド東方海域で3隻を調査した。北方海区の平均水温は変化ないが、チャタム海区では11月15.4°より3°程度上昇して18.2°となつている。海流については、漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

0—15°S, 160—140°W の海区におけるキハダは低率期であるが、12月は増加に轉じて、北西部2.47, 東部2.53と両海域とも同様の率を示している。この海区としては、まだそれほどの好漁とはいえない。タヒチ海区においては、9月から低減過程にあつて12月も低下を續け、31年10月から32年2月えかけての変化と全くことなつている。タヒチ海区の操業船は、140°線よりのものがやや高率を得ている、サモア海区のキハダは、ハワイ南西海区5°N以南と同じく低率期で、海区北部の1隻は釣獲率1.15の不漁である。

0—15°S, 160—140°Wの海区のキハダは中型魚が多く、131—140cmにモードがあつて、大型の多かつた31年12月とことなつている。タヒチ海区では、中型魚が減少してふたたび大型が増加し、9月10月と同様の体長組成を示している。

（メ　バ　チ）

0—15°S, 160—140°W の海区では、北西部、マーケサス西側の両海域ともほぼ同率で海区平均0.84, この海区としては高率である。タヒチ海区は低く、サモア海区は0.74でやや好漁、チャタム海区は0.02で低率である。

0—15°S, 160—140°Wの海区の体長組成を10月と比較すると、111—120cmのモードは変らないが、小型魚のいちじるしい増加がめだつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ビンナガは、0—15°S, 160—140°W の海区では平均釣獲率0.46, マーケサス西方の1隻は0.89で北西部0.14より高いが、この海区は現在ビンナガの好漁期にあり、11月5.37の高率からみても12月の低率は異常なものと思われる。タヒチ海区は31年秋から好漁で、海区北東部で2.83と僅か上昇、サモア海区は低く、チャタム海区では秋季から増加しつつある。

（インド　マグロ）

インドマグロは、チャタム海区において10月以来好漁が続き、海区北西部は依然として活況を呈している。

体長組成は11月より更に全体的に小型となり、モードも121—130cmにうつつて大型のものはみられない。

（ク　ロ　カ　ワ）

0—15°S, 160—140°W の海区は高率期であるが、11月0.20に続いて12月も0.21の低率であつたタヒチ海区も秋季から高率期に入つて好漁であるが、一昨年、昨年の釣獲率に達せず、12月は1.23で11月と同率、サモア海区北方の1隻は、ハワイ南西海区

5°N以南と同じく0.34を示している。チヤタム海区では、カジキ類の漁獲はみられない。

体長組成は、0—15°S, 160—140Wの海区では調査尾数が少く、151—170cmのものが多い。タヒチ海区ではモードが171—180cmにうつつて161—190cmのものが65.3%を占めている。

D. 北部太平洋漁場

(30—35°N, 150—180°Eの海区、東北海区)

この漁場の調査隻数は、11月より増加して、30—35°N, 150—180°Eの海区では、150—160°Eの海域で6隻、160—170°Eで4隻、170—180°Eで1隻、計11隻を調査しさらに東北海区の犬吠岬沖で1隻を調査した。

30—35°N, 150°E—180°の海区では、平均水温19.6°Cで11月よりやや低下した。この海区の海流は漁場圖に示す如くおおむね西流であるが、160°E線の西側では、0.8—1.0ノット程度の南東流がみられている。

(キ　ハ　ダ)

30°N以北の海区はいづれも周年低率、西部太平洋140—150°Eの海域では、10月11月より増加して0.35となつたが、当分低率が続くであろう。

西部太平洋亜熱帯海区におけるキハダの体長組成は、150—160°Eの海域では100cm以下のものが多く、140—150°Eではやや大きく、101—110cmと111—120cmとに第1第2のモードがあるが、従來より小型である。

(メ　バ　チ)

30—35°N, 150—180°Eの海区では、11月の高率から減少を始め、170—180°E, 1.13, 160—170°E, 1.29, 150—160°Eでは0.58と低くなり低減過程に入つた。西部太平洋亜熱帯海区160—170°Eでは0.86と好漁を維持し、140—150°Eでは急減して0.12となり、このまま夏季の不漁期に向うであろう。東北海区のメバチの釣獲率はこの漁場中もつとも低く0.53であつた。

体長組成は、30—35°N, 150—180°E, 西部太平洋の両海区とも従来より大型で、前者は121—130cmに、後者は91—100cmに第1のモード、121—130cmに第2のモードがある。

(ビ　ン　ナ　ガ)

30—35°N, 150—180°Eのビンナガは、好漁期に入つて東部および中部で高率となり、それぞれ5.18, 3.60を示し、西部の150—160°Eではやや低く1.65である。33年1月頃から減少過程に入るであろう、西部太平洋160—170°Eでは不漁、140—150°Eでは好漁の初期で2.07となり更に2月頃まで上昇が続くであろう。東北海区犬吠岬沖では3.44の高率である。

(クロカワ、マカジキ)

この漁場のクロカワはどの海区も不漁で、マカジキは西部太平洋140—150°Eで僅かに0.26を示しているに過ぎない。マカジキの体長組成は従来と同型である。

## E. 旧南洋庁沿海漁場

（旧南洋庁沿海北部、旧南洋庁沿海南部）

この漁場の調査船は、11月よりやや増加して、南洋北部では10°N, 158°Eで1隻、南洋南部で170°Eは以東4隻、170°E以西では各海域にわたつて18隻が調査された。

（キ　ハ　ダ）

南洋北部150—160°Eの1隻は、釣獲率2.70の好漁であるが、これは操業1回のみの成績であり、南部の各海域では、130—140°Eで11月のいちじるしい不漁から恢復して、5°N以南で3.24の高率を示したほかは、各海域とも11月に続いて低率で、170°E以西では5°N以南は以北より高率であつた。（表1）

表 1. 舊南洋廳沿海南部におけるキハダの漁況 (32.12)

| | 130°—140°E | 140°—150°E | 150°—160°E | 160°—170°E | 170°E 以東 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5°N以北 | — | 0.69 | 0.61 | 0.45 | 0.68 |
| 5°N以南 | 3.24 | 1.49 | 3.37 | 1.31 | 0.49 |

体長組成は、150—160°Eと160—170°Eでは11月と同形、170°E以東では111—120cmにモードがあつて型の大きいものがやや多い。

（メ　バ　チ）

北部150—160°Eの1隻は、12月0.83でこの海域のメバチとしてはやや好漁、南部170°E以東、160—170°E, 150—160°Eは、ともに好漁期となつて秋季より上昇が続き、それぞれ2.02, 1.54, 2.21の高率が得られたが、140—150°Eは1.31でやや好漁、130—140°Eでは9月2.15から低減過程に入つて12月0.60に減少した。（表2）

表 2. 舊南洋廳沿海南部におけるメバチの漁況 (32.12)

| | 130°—140°E | 140°—150°E | 150°—160°E | 160°—170°E | 170°E 以東 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5°N以北 | — | 1.11 | 1.85 | 1.64 | 2.41 |
| 5°N以南 | 0.60 | 1.68 | 3.25 | 1.42 | 0.90 |

南洋南部の体長組成は11月と変りなく、170°E以西では100cm以下のものが増加した。

（ク　ロ　カ　ワ）

旧南洋庁沿海北部では0.59でやや好漁、南部では各海域とも同様に低下していて不漁期で、釣獲率はおおむね西寄りに低くなつている。

体長組成は、南部の170°E以東では11月と変らず、170°E以西でも151—160°Eのモード28.6%は変らないが、150cm以下のものがやや増加して従来の傾向を示している。（表3）

表 3. 舊南洋廳沿海南部におけるクロカワの漁況 (32.12)

| | 130°—140°E | 140°—150°E | 150°—160°E | 160°—170°E | 170°E 以東 |
|---|---|---|---|---|---|
| 5°N以北 | — | 0.11 | 0.29 | 0.24 | 0.16 |
| 5°N以南 | 0.09 | 0.07 | 0.09 | 0.11 | 0.15 |

## F. ソロモン以南漁場

（ソロモン海区、ニューカレドニア海区、ニュージーランド海区）

ソロモン海区の調査船は11月より半減して、0—5°Sでは西部のニューギニア北方およびソロモン諸島北方で11隻、5—10°Sでは西よりで8隻と減少、10—15°Sの海域でも西よりで7隻、計26隻を調査し、ニューカレドニア海区の調査船は11月より倍増し

て、11月とほぼ同様の漁場で22隻、またニユージーランド海区においては、10月以来の漁場ノース・アイランドのイースト岬北方海域で2隻が調査された。各漁場の水温には大きな變化はないが、ニユーカレドニア西方漁場の南部では、11月よりやや低下して22.6°となつた。海流については漁場圖を参照されたい。

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区のキハダは秋季からの好漁期にあり、海区平均釣獲率は0.48で高率である。

0—5°Sの海域においては、なお上昇過程にあつて4.76に達し、11月と同様に西よりに高率となつている。(圖1) この好漁は12月を頂点とし、1月には低減過程に入るであろう。

図 1. ソロモンおよびニユーカレドニア海区におけるキハダの漁況 (32.12)

| | 140°E | | 150°E | | 160°E | 165°E |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0°S–5°S | 5.94 | | | 5.05 | 2.58 | |
| 5°S–10°S | | 5.53 | 4.78 | | 4.18 | |
| 10°S–15°S | | 2.30 | 3.44 | 2.21 | | |
| 15°S–20°S | | | 1.62 | | | |
| 20°S–25°S | | | 2.12 | | | |
| 25°S–30°S | | | | 0.79 | | |

5—10°Sでは、9月以來の高率からやや減少したが、0—5°Sと同率の4.77を示して好漁が続き、やはり西よりに釣獲率の高い傾向がみられる。

10—15°Sの海域では、ヨーク半島東岸の漁場はほとんど消滅してニユーギニア南東部南方海域が主漁場となり、海域平均釣獲率は2.95を示して11月より僅か高い。ニユーカレドニア海区においては、11月は10月から減少したが、12月には増加して2.12となり、ほぼ10月に等しい。28年以來、ニユーカレドニア海区におけるキハダは冬季高率の傾向を示しているが、31年から8, 9月にも好漁がみられている。ソロモン海区に比較すると全般的に低率で、20—25°Sの海域がもつとも好漁である。

ニユージーランド海区におけるキハダの漁獲は皆無である。ソロモン海区におけるキハダは南洋南部よりやや小型で、101—110cm にモードがあり、各海域間に体長組成の差はみられない。

ニユーカレドニア海区においては、131—140cm のモードは変らず11月と同形であるが、121—140cmのものが増加して60.9%を占めている。

（メ　バ　チ）

ソロモン海区メバチは、既に周和の如く周年低率であり、又その釣獲率の変化は不規則である。12月の釣獲率は0.55で11月より増加した。これを海域別にみると南部より北部海域が高く0—10°Sでは東側が高率である。

図 2. ソロモンおよびニユーカレドニア海区におけるメバチの漁況 (32.12)

| | 140°E | | 150°E | | 160°E | 165°E |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 0°S–5°S | 0.73 | | | 0.72 | 1.33 | |
| 5°S–10°S | | 0.18 | 0.32 | | 0.45 | |
| 10°S–15°S | | 0.07 | 0.11 | 0.09 | | |
| 15°S–20°S | | | 0.07 | | | |
| 20°S–25°S | | | 0.21 | | | |
| 25°S–30°S | | | | 0.23 | | |

ニユーカレドニア海区では、31年より夏季～秋季高率の傾向があらわれて、12月0.17は10月以来の低率である。

ニユージーランド海区におけるメバチは、昨年12月には、29—33°S, 167—171°Eで1.99

の高率が得られたが、(調査船1隻、操業19回) 本年12月のノース•アイランド、イースト岬北方海域におけ二漁況は夏季以来の低率を続けて低調である。

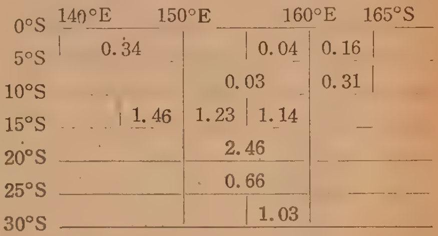
ソロモン海区の体長組成は11月とほぼ同形で変りなく、海域による差もみられないニューカレドニア海区においては、11月よりやや小型となり、10月と同様の組成で、ソロモン海区より型の大きいものが多い。ニュージーランド海区のメバチは、他海区より大型のようである。

(ビ　ン　ナ　ガ)

ソロモン海区北部および中部のビンナガは冬季の低率にあつて、それぞれ0.20, 0.05となつたが、南部の10—15°Sは増加過程に入つたようで、12月は11月より更に上昇して1.27となり、オーストラリアよりに高率である。ニューカレドニア海区でも11月の低率から増加して、1.06となり、來年初夏まで漸増が見込まれている。又、ニュージーランド海区では、11月から上昇過程に入つていて、12月は1.96を示し、この海区としては高率となり、昨年同期よりも好漁である。

Figure 3 Fishing condition of albacore in Solomon & New Caledonia sea d

図 3. ソロモンおよびニューカレドニア海区におけるビンナガの漁況 (32.12)




ソロモン海区のビンナガは南よりに大型となる傾向を示し、12月は91—100cmが 62.7%に達して組成の中心となり、ニューカレドニア海区と同形である。ニュージーランド海区のビンナガは、11月と同じく小型で71—80cmにモードがあり71.0%を占めている。

(インド　マグロ)

ニュージーランド海区におけるインドマグロは、ノース•アイランドのイースト岬北方漁場で釣獲率6.57となり、9月の高率9.88を頂点として低減過程に入つていて、なお減少が続くものと思われる。

漁場は11月に比較して南よりで、チヤタム海区の漁場と近接していて、体長組成はチヤタム海区と同形で121—130cmにモードがみられ、11月よりはるかに大型となつた。

(クロカワ、シロカワ、マカジキ)

ソロモン海区のクロカワは冬季の上昇期となつたが、5—10°Sでは0.20とやや減少0—5°Sおよび10—15°Sの両海域では、それぞれ11月より増加して0.14, 0.23の率となつた。5—15°Sの海域では、なお漸増が期待される。

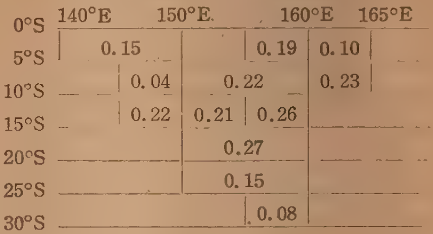
ニューカレドニア海区のクロカワも上昇期に入り、11月0.08から12月0.17と増加、漸次高率となるであろう。

シロカワは、ソロモン南部およびニューカレドニア海区で急減し、11月の釣獲率0.8からそれぞれ0.11, 0.09となつた。

ニューカレドニア海区のマカジキは、9月にやや増加して0.29を示し、10月は0.08と減少したが、11月から再び上昇に轉じて12月は0.67の高率となり、盛漁期と思はれる

ソロモン海区0—5°Sのクロカワは小型で141—150cmにモードがあり、5—10°Sおよびニューカレドニア海区では、161—170 cmにモードがみられ、いづれも11月と同形である。

図. 4 ソロモンおよびニューカレドニア海区におけるクロカワの漁況 (32.12)




シロカワは、ソロモン海区北部の調査では201—210cm のものが多く、海区全体としては、201—210cmに第1の山が211—210cmに第2の山があらわれて従来より大型である。ニユーカレドニア海区では、181—200cm の体長範圍のものが31.6%を占めて11月とおおむむ同形であつた。

ニユーカレドニアのマカジキは、11月と同じく191—210cmのものが半数以上で63.7%、従来知られているように大型魚の多い傾向を示している。

## G. 東部印度洋漁場

（バンダ•フロレス海区、小スンダ•チモール海区、
スマトラ西岸沿海海区、濠洲西方海区）

この漁場における操業船は、12月に入つて急増し計20隻となつた。バンダ•フロレス海区では、フロレス海中央部およびブル島南方で各1隻、セラム島南方のバンダ海で3隻、計5隻を調査し、小スンダ•チモール海区においては、サンダルウツド、スンバワ、バリ島南方の海区西より海域で3隻、チモール島北側で2隻、さらに15°S線附近で2隻、合計7隻が調査され、スマトラ西岸沿海では南部で3隻、濠洲西方海区では、11月に続いてオーストラリア北西岸沖の5隻を調査した。

各海区を通じて、表面水温にはほぼ1°程上昇の傾向がみられる。

（キ　バ　ダ）

バンダ•フロレス海区のキハダは、11月に6.62といちじるしい高率を示したが、12月は減少して10月とほぼ等しく3.26となつた。この海区としてはなお高率で、1月には減少するであろう。

小スンダ•チモール海区においては、チモール島北側の2隻と西部の3隻の漁況に差がみられ、前者は4.06, 後者は2.45を示し、好漁期である。

スマトラ西岸沿海南部のキハダは11月よりやや減少して2.23, この海区としてはそれほど高率といえない。しばらくこの程度の釣獲率が続くであろう。

濠洲西方海区は東部印度洋漁場中もつとも低率で1.88, 11月よりやや上昇してこの海区の盛漁期にあるようで、一昨年までの高率はのぞめないようである。

体長組成は、バンダ•フロレス海区においては、121—130cm にモードがうつつて11月より大型となり、従來通りの傾向である。小スンダ•チモール、スマトラ西岸両海区は、バンダ•フロレス海区とおおむね同形、濠洲西方海区では100cm以下のものがみられず、モードはバンダ•フロレス、スマトラと同じ121—130cm にうつつて11月より小型のものが多い。

（メ　バ　チ）

バンダ•フロレス海区におけるメバチは、11月に急減したが、12月には10月とほぼ同率に恢復1.98を示した。船による釣獲率の差をみると、漁場東部のヒラム島南東方海域の1隻が特に高く6.87，西部の6—7S, 123—125E では0.77と低率である。1月には減少して、冬季の好漁は望めないであらう。

小スンダ•チモールおよび濠洲西方の両海区は不漁期に入つているが、前者では12月0.65と11月よりほとんど倍増した。

スマトラ西岸沿海海区は高率期にあつて、11月の好漁よりやや低下し、低減過程に入つたように思われる。

体長組成は、3海区とも131—140cmにモードがあり、従来とことなつた大きな変化はない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

小スンダ•チモール海区の小スンダ列島南方海域においては、上昇前の不漁期にあつて0.10の低率で、チモール島北方のフロレス海側の2隻は漁獲皆無である。濠洲西方海区のビンナガも、同様に好漁期直前の低率で0.32を示し、スマトラ西岸沿海海区は、11月の低率0.24から1.00に増加したが、一昨年のように高率を示すかどうかは不明である。

体長組成をみると、91—100cmのものが多く、三海区とも50％以上を占めている。

（インド　マグロ）

小スンダ列島南方海域における小スンダ•チモール海区のインドマグロは、好漁期を終つて小スンダ列島南方で1.15と低率となり、濠洲西方海区では冬季の好漁期で、11月から僅か増加して12月の釣獲率は 0.66 を示し、更に上昇が見込まれている。

小スンダ•チモール海区におけるインドマグロの体長組成は、151—160cm にモードがあつて他海区より大きく、従来と同傾向である。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワは全般的に極めて僅かながら上昇しているが、釣獲率は低く、各海区を通じて好況がみられない。

シロカワはバンダ•フロレス海区で高率期前となり、1月には増加するであらう。濠洲西方海区は好漁期で上昇が期待されたが、高率が得られず、11月からやや減少して0.34を示している。

マカジキは濠洲西方海区で11月の高率から0.28に低下、昨年同期と同率、同傾向で今後低率となる。

濠洲西方海区におけるシロカワの体長組成は11月と同形である。

## H. 中部印度洋漁場

（セイロン海区、中部印度洋海区）

12月はこの漁場で6隻の調査船があり、セイロン海区南東部の 2—3°N, 90°E 附近で1隻、中部印度洋海区では、7—11°S, 81—90°E の海域でスマトラ西岸沿海海区の

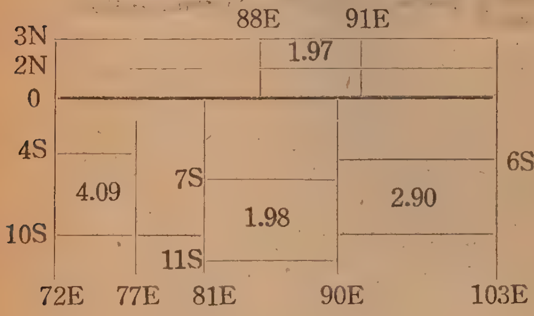
漁場に隣接して2隻、北西部の4—10°S, 72—77°Eで3隻、計5隻を調査した。セイロン海区は5ヶ月ぶりに調査され、表面水温 28.5°Cで7月と変りなく、中部印度洋海区は8ヶ月ぶりに調査されている。体長組成は、中部印度洋海区において東側の2隻と西側の1隻を調査した。海流については漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

セイロン海区のキハダは晩冬から好漁となり、初夏のモンスーンまで漁が続くようで、12月は1.97と低率である。釣獲率は漸次增加するものと思われるが、今後の変化が注目される。

Fishing condition of yellowfin tuna (Dec '57)

図 5. スマトラ西岸沿海、セイロン、中部印度洋各海區におけるキハダの漁況　(32.12)




中部印度洋海区では好漁期となつているが、平均釣獲率は2.87で従来より低い。東方海域よりは西方海域がはるかに高率である。（圖5）この釣獲率が、33年に入つて一且上昇した後減少するか、このまま低下を続けるかは不明である。

体長組成をみると、中部印度洋では121—130cmにモードがあり、濠洲西方海区と同形である。

（メ　バ　チ）

セイロン海区のメバチは、冬季高率夏季低率の変化をしているようで、12月の調査船1隻は6回の操業で釣獲率2.18の高率であつた。好漁の最盛期と思われる。

中部印度洋海区は1.14とやや低く東方海域が西方より高率であつた。（圖6）1月には更にやや增加して好漁となるであろう。

中部印度洋海区の体長組成をみるとに、131—140cmにモードがあつて、スマトラ西岸沿海海区とほぼ同形、昨年12月とも同形で、121—140cmの体長範圍のものが40.9%を占めている。

Fishing condition of bigeye tuna

図 6. スマトラ西岸沿海、セイロン、中部印度洋各海區におけるメバチの漁況　(32.12)

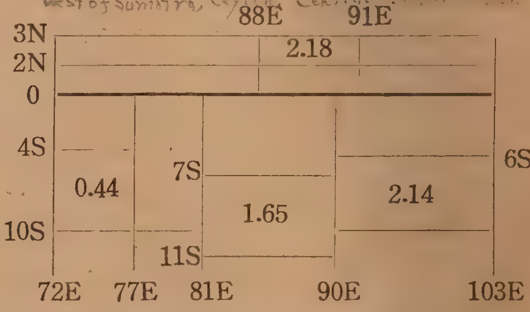
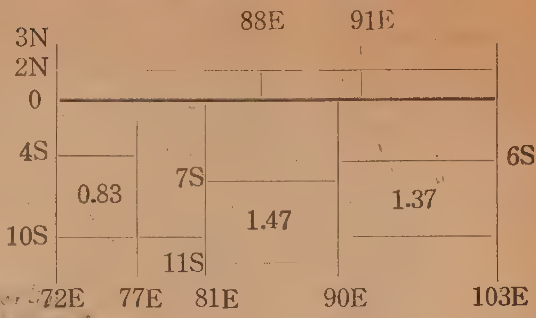


Fig 7. West of Sumatra, Ceylon, Central Indian

図 7. スマトラ西岸沿海、セイロン、中部印度洋各海區におけるビンナガの漁況　(32.12)

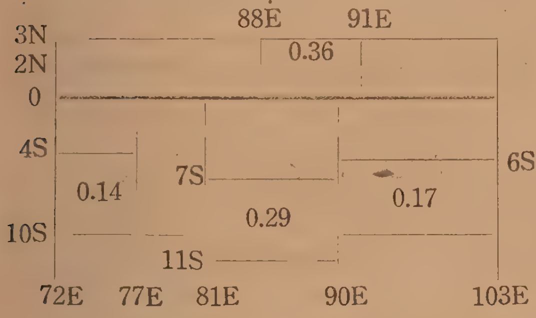



(ビ　ン　ナ　ガ)

セイロン海区では漁獲無く、中部印度洋海区では12月1.20とやや高率で上昇が期待され、メバチと同じく東方海域が西方よりはるかに高率である。魚体は101—110cmのものが多く65.3%、従来と同傾向である。

(圖7)

図 8、スマトラ西岸沿海、セイロン、中部印度洋各海區におけるクロカワの漁況　(32.12)




(ク　ロ　カ　ワ)

セイロン海区のクロカワは0.36で12月の東中部印度洋漁場では最も高い。中部印度洋海区は平均釣獲率0.23を示し、東方海域が西方より高率であつた。　(圖8)

中部印度洋海区12月の体長組成は従来に變らず、161—170cmにモードがあつて、161—180cmのものが多い。

(マ　カ　ジ　キ)

マカジキはセイロン海区で0.29, 中部印度洋海区では0.33, 特に後者の西方海域で0.52とかなり高い率を示している。セイロン海区は春季に向つて上昇するかも知れないが、中部印度洋海区では釣獲率の増加は望めないであらう。

中部印度洋における体長組成をみると、181—190cmのものが40.2%で大型の多い傾向がある。


暑　中　御　伺　　昭和三十三年 盛 夏

丸石式ゴムローラ

實用新案特許出願中

特徴
○ 綱の摩耗皆無にて、擦傷等の心配はありません
○ 揚綱所要時間の短縮
○ 揚綱中にも綱外れ等は皆無です
○ 綱のもつれの場合でも氣持良く代ります
○ 本製品は特殊合成ゴム使用の爲、耐油性・耐摩耗性にて耐久力が有ります
○ ゴムローラ御使用になりますとゴム輪・滑車等の摩耗の防止になります

神奈川県三崎港魚市場前　電(三浦)2923

丸　石　商　店

"Table of investigations on tuna catch by

## 月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

| 漁場 (Fishing ground) | 操業区域 (Area of operation) | 調査隻数 (Number of vessels) | 水温 (C°) | 流向 流速 (Current direction) | 操業回数 | 漁具数 | 鈎数 | | きはだ | ま<br>めばち |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ガラパゴス | 7— 11S<br>123—109W | 6 | 24.4<br>25.9 | W0.2—0.4<br>WSW 0.2—0.4 | 16 | 69,572 | 321,411 | 尾数<br>% | 5792<br>1.80 | 11141<br>3.47 |
| 0— 15S<br>140—120W | 6— 8S<br>127—125W | 1 | 26.4<br>26.5 | — | 11 | 4,362 | 17,448 | | 172<br>0.99 | 548<br>3.14 |
| アルキペラゴ (Archipelago) | 20— 22S<br>140—138W | 1 | 25.2<br>26.4 | NW 0.5—1.0<br>W0.2,E0.3<br>WSW 0.1 | 11 | 4,315 | 17,260 | | 135<br>0.78 | 32<br>0.19 |
| 30— 40N<br>180—140W | 30— 35N<br>178E-145W | 16<br>(3) | 17.2<br>22.8 | NE 0.2 | 268 | 92,792 | 393,664 | | 13 | 10476<br>2.66 |
| ミッドウエー | 28— 30N<br>179E-178W | 1 | 20.0 | — | 11 | 3,620 | 15,180 | | 206<br>1.36 | 97<br>0.64 |
| ハワイ南西<br>(5°N 以北) | 4— 10N<br>179E-160W | 4 | 27.0<br>28.9 | NE 0.4—0.8 | 93 | 34,866 | 140,484 | | 1231<br>0.88 | 3338<br>2.38 |
| ハワイ南西<br>(5°N 以南) | 01°-38′°N<br>174°-27′°W | 1 | 29.1 | — | 1 | 375 | 1,500 | | 19<br>1.27 | 5<br>0.33 |
| 0— 15S<br>160—140W | 0— 10S<br>160—138W | 3 | 27.9<br>29.1 | SW/W 0.3—0.4<br>E 0.2—0.4 | 33 | 12,918 | 63,266 | | 1580<br>2.50 | 533<br>0.84 |
| タヒチ (Tahiti) | 14— 20S<br>148—140W | 5 | 26.0<br>28.8 | E 0.4—0.5<br>W0.1—0.5<br>SW 0.2—0.4 | 98 | 38,680 | 176,745 | | 908<br>0.51 | 169<br>0.10 |
| サモア (Samoa) | 02°-01′°S<br>169°-27′°W | 1 | 29.3<br>29.4 | — | 1 | 370 | 1,480 | | 17<br>1.15 | 11<br>0.74 |
| チヤタム (Chatham) | 35— 40S<br>179E-179W | 3<br>(1) | 17.7<br>18.6 | W 0.5-0.8<br>S-E 0.3-0.7<br>NE 0.5-1.0 | 41 | 16,430 | 72,930 | | | 17<br>0.02 |
| 30— 35N<br>150—180E | 29— 35N<br>150—179E | 11<br>(1) | 17.7<br>22.9 | NE 1.5-2.0<br>ENE1.0-2.0<br>ESE 0.8 | 163 | 31,604 | 222,497 | | 54<br>0.02 | 1927<br>0.87 |
| 東北 (East north) | 35— 36N<br>142—143E | 1 | 19.4<br>20.4 | — | 3 | 470 | 2,820 | | | 15<br>0.53 |
| 西部太平洋 | 20— 30N<br>141—164E | 3 | 21.1<br>26.1 | NW—N | 51 | 10,604 | 59,420 | | 126<br>0.21 | 261<br>0.44 |

# (昭和32年12月操業分)

(Table A)
(別表1) A

| まぐろ | | | かじき | | | | | かつお | miscellaneous 雑 | Shark さめ | Total 計 | 記事 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| びんなが | 黒まぐろ | いんど鮪 | くろかわ | しろかわ | まかじき | めかじき | ばしょう | | | | | |
| 313<br>0.13 | | | 869<br>0.27 | 95<br>0.03 | 94<br>0.03 | 176<br>0.05 | 2 | 287<br>0.09 | 118<br>0.04 | 225<br>0.07 | 19112<br>5.95 | 鮫未調査隻数 4<br>体長測定隻数 5 |
| | | | 69<br>0.40 | 3<br>0.02 | 8<br>0.05 | 5<br>0.03 | | | | 60<br>0.34 | 865<br>4.96 | 0<br>1 |
| 322<br>1.87 | | | 285<br>1.65 | 1<br>0.01 | 6<br>0.03 | 1<br>0.01 | | | 1<br>0.01 | | 783<br>4.54 | 1<br>1 |
| 2058<br>0.52 | 1 | | 16 | | 231<br>0.06 | 219<br>0.06 | | 16 | 837<br>0.21 | 1370<br>0.35 | 15237<br>3.86 | 6<br>9 |
| 127<br>0.84 | | | 1 | 1 | | | | 35<br>0.23 | 2 | | 469<br>3.09 | 1<br>1 |
| 9<br>0.01 | | | 232<br>0.17 | 5 | 27<br>0.02 | 13<br>0.01 | 8<br>0.01 | | 1 | 189<br>0.13 | 5053<br>3.60 | 2<br>2 |
| | | | 5<br>0.33 | | | | | | | | 29<br>1.93 | 0<br>0 |
| 294<br>0.46 | | | 133<br>0.21 | 7<br>0.01 | 8<br>0.01 | 11<br>0.02 | 5<br>0.01 | 98<br>0.15 | 111<br>0.18 | 249<br>0.39 | 3029<br>4.79 | 2<br>2 |
| 5001<br>2.83 | | | 2171<br>1.23 | 24<br>0.01 | 50<br>0.03 | 13<br>0.01 | 20<br>0.01 | | 289<br>0.16 | 432<br>0.24 | 9077<br>5.14 | 2<br>2 |
| 2<br>0.14 | | | 5<br>0.34 | | 2<br>0.14 | | | | | | 37<br>2.50 | 0<br>0 |
| 1774<br>2.43 | | 4862<br>6.67 | | | 5<br>0.01 | | | | 25<br>0.03 | 137<br>0.19 | 6820<br>9.35 | 1<br>3 |
| 5921<br>2.66 | | | 15<br>0.01 | 1 | 142<br>0.06 | 246<br>0.11 | 1 | 2 | 232<br>0.10 | 608<br>0.27 | 9149<br>4.11 | 0<br>6 |
| 97<br>3.44 | | | | | 2<br>0.07 | 1<br>0.04 | | | 1<br>0.04 | 12<br>0.43 | 128<br>4.57 | 0<br>0 |
| 712<br>1.20 | | | 15<br>0.03 | | 97<br>0.16 | 30<br>0.05 | | | 5<br>0.01 | 213<br>0.36 | 1459<br>2.46 | 0<br>3 |

| 漁　場 | 操業区域 | 調査隻数 | 水温 (C°) | 流向 流速 | 操業回数 | 漁具数 | 鈎　数 | | きはだ | めばち |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 南洋北部 | 10°–18′°N<br>158—150E | 1 | 28.0 | | 1 | 340 | 2,040 | 尾数<br>% | 55<br>2.70 | 17<br>0.83 |
| 南洋南部<br>(170°E以東) | 1S— 11N<br>170E—180 | 4 | 28.0<br>29.2 | | 57 | 20,003 | 93,152 | | 585<br>0.63 | 1881<br>2.02 |
| 南洋南部<br>(170°E以西) | 0— 11N<br>132—169E | 18<br>(1) | 22.2<br>30.0 | W<br>E—ENE<br>0.2—0.5<br>NW0.2-0.6<br>SE 0.7-1.2 | 293 | 84,005 | 470,966 | | 6359<br>1.35 | 7470<br>1.59 |
| ソロモン | 0— 15S<br>141—167E | 26<br>(7) | 27.2<br>30.9 | W 0.7<br>SSE—E<br>0.7—1.2<br>S, WSW<br>0.3 | 318 | 112,957 | 538,783 | | 24152<br>4.48 | 2980<br>0.55 |
| ニユー<br>カレドニア | 15— 30S<br>147—161E | 22<br>(7) | 22.6<br>8.2 | | 405 | 147,263 | 680,956 | | 14464<br>2.12 | 1164<br>0.17 |
| ニユー<br>ジーランド | 35— 38S<br>178—180E | 2 | 16.4<br>18.8 | | 34 | 10,604 | 58,320 | | - | 40<br>0.07 |
| バンダ | 3— 8S<br>123—133E | 5<br>(1) | 28.4<br>31.2 | | 70 | 24,520 | 109,100 | | 3557<br>3.26 | 2162<br>1.98 |
| 小スンダ | 9— 16S<br>115—129E | 7<br>(3) | 28.8<br>30.9 | | 108 | 39,779 | 188,766 | | 5233<br>2.77 | 1236<br>0.65 |
| スマトラ | 6— 10S<br>87—103E | 3 | 27.0<br>29.0 | W 0.2-0.5 | 92 | 35,147 | 174,755 | | 3895<br>2.23 | 2623<br>1.50 |
| 濠洲西方 | 14— 23S<br>113—120E | 5<br>(2) | 27.3<br>22.0 | | 73 | 30,956 | 144,203 | | 2706<br>1.88 | 153<br>0.11 |
| セイロン | 2— 3N<br>88— 91E | 1 | 28.3<br>28.6 | SE, SSE<br>ENE<br>NE<br>NE/N | 6 | 2,482 | 12,410 | | 244<br>1.97 | 270<br>2.18 |
| 中部印度洋 | 4— 11S<br>72— 90E | 5 | 27.1<br>29.0 | NE—SE<br>0.4—0.8 | 105 | 46,401 | 197,590 | | 5677<br>2.87 | 2245<br>1.14 |
| 合　計 | 26 | 156<br>(26) | | | 2363 | 875,435 | 4,177,146 | | 77180<br>1.85 | 50811<br>1.22 |

(Attached Table)【17】

（別表1） B

tunas

| ぐろ |  |  | かじき |  |  |  | かつお | 雑 | さめ | 計 | 記事 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ひんなが | 黒まぐろ | いんど鮪 | くろかわ | しろかわ | まかじき | めかじき | ばしょう |  |  |  |  |  |
| 2<br>0.10 |  |  | 12<br>0.59 |  |  |  |  | 1<br>0.05 |  |  | 87<br>4.26 | 鮫未調査隻数 0<br>体長測定隻数 0 |
| 13<br>0.01 |  |  | 143<br>0.15 | 6<br>0.01 | 23<br>0.02 | 9<br>0.01 |  |  | 14<br>0.02 |  | 2674<br>2.87 | 4<br>4 |
| 144<br>0.03 |  |  | 826<br>0.18 | 56<br>0.01 | 96<br>0.02 | 20 | 109<br>0.02 | 149<br>0.03 | 458<br>0.10 | 1276<br>0.27 | 16963<br>3.60 | 7<br>6 |
| 1693<br>0.31 |  |  | 958<br>0.18 | 216<br>0.04 | 17 | 50<br>0.01 | 1803<br>0.33 | 34<br>0.01 | 285<br>0.05 | 777<br>0.14 | 32965<br>6.12 | 16<br>12 |
| 7198<br>1.06 |  | 1 | 1180<br>0.17 | 590<br>0.09 | 4557<br>0.67 | 224<br>0.03 | 220<br>0.03 | 1 | 502<br>0.07 | 62<br>0.01 | 30163<br>4.43 | 17<br>11 |
| 1144<br>1.96 |  | 3831<br>6.57 |  |  | 3<br>0.01 | 1 |  |  | 15<br>0.03 | 3<br>0.01 | 5037<br>8.64 | 1<br>1 |
|  |  |  | 220<br>0.20 | 73<br>0.07 | 17<br>0.02 | 17<br>0.02 | 93<br>0.09 |  |  | 209<br>0.19 | 6348<br>5.82 | 4<br>2 |
| 195<br>0.10 |  | 1736<br>0.92 | 129<br>0.07 | 320<br>0.17 | 164<br>0.09 | 37<br>0.02 | 20<br>0.01 |  | 8 | 364<br>0.19 | 9442<br>5.00 | 5<br>3 |
| 1751<br>1.00 |  | 5 | 220<br>0.13 | 220<br>0.13 | 356<br>0.20 | 24<br>0.01 | 51<br>0.03 |  | 104<br>0.06 | 83<br>0.05 | 9332<br>5.34 | 1<br>1 |
| 461<br>0.32 |  | 951<br>0.66 | 109<br>0.08 | 489<br>0.34 | 406<br>0.28 | 28<br>0.02 | 33<br>0.02 | 147<br>0.10 | 47<br>0.03 | 279<br>0.19 | 5809<br>4.03 | 3<br>2 |
|  |  |  | 45<br>0.36 | 1 | 36<br>0.29 | 1 |  |  |  |  | 597<br>4.81 | 1<br>1 |
| 2369<br>1.20 |  |  | 447<br>0.23 | 205<br>0.10 | 657<br>0.33 | 34<br>0.02 | 54<br>0.03 |  | 33<br>0.02 | 234<br>0.12 | 11955<br>6.05 | 3<br>3 |
| 31600<br>0.76 | 1 | 11386<br>0.27 | 8105<br>0.19 | 2313<br>0.06 | 7004<br>0.17 | 1160<br>0.03 | 2419<br>0.06 | 770<br>0.02 | 3088<br>0.07 | 6782<br>0.16 | 202619<br>4.85 | 81<br>81 |

# 月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和32年12月操業分）

（別表2）

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 尾数<br>% | 50 cm 以下 | 51—60 | 61—70 | 71—80 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| きはだ | 5 | ガラパゴス | 7—10S<br>123—109W | 135 | | | | | | | | 2<br>0.4 | 6<br>1.3 | 31<br>6.5 | 91<br>19.0 | 163<br>34.0 | 148<br>30.9 | 38<br>7.9 | | 479<br>100 | 4828 |
| | 2 | 30—40N<br>180—140W | 31—33N<br>166—151W | 38 | | | | | 2<br>0.3 | 104<br>16.6 | 44<br>7.1 | 40<br>6.4 | 197<br>31.5 | 200<br>32.0 | 22<br>3.5 | 10<br>1.6 | 3<br>0.5 | | 3<br>0.5 | 625<br>100 | 1051 |
| | 1 | ミッドウェー | 30—33N<br>178E—174W | 4 | | | | | | | 3<br>3.0 | 44<br>44.4 | 42<br>42.4 | 10<br>10.1 | | | | | | 99<br>100 | 206 |
| | 1 | ハワイ南西<br>(5°N以北) | 6—10N<br>176—171W | 25 | | | | | | | | 4<br>9.1 | 19<br>43.2 | 15<br>34.1 | 4<br>9.1 | 2<br>4.5 | | | | 44<br>100 | 294 |
| | 1 | 0—15S<br>160—140W | 0—1S<br>160—159W | 16 | | | | | | | 2<br>1.0 | 11<br>5.6 | 36<br>18.3 | 53<br>26.9 | 68<br>34.5 | 23<br>11.7 | 4<br>2.0 | | | 197<br>100 | 197 |
| | 1 | タヒチ | 17—19S<br>148—144W | 19 | | | | | | | | | | 3<br>2.6 | 24<br>20.5 | 56<br>47.9 | 29<br>24.8 | 5<br>4.3 | | 117<br>100 | 120 |
| | 3 | 30—35N<br>150—180E | 33—35N<br>157—164E | 83 | | | | | | | 6<br>27.3 | | 1<br>4.5 | 6<br>27.3 | 6<br>27.3 | 2<br>9.1 | 1<br>4.5 | | | 22<br>100 | 22 |
| | 3 | 西部太平洋 | 20—30N<br>141—164W | 51 | | | | 7<br>5.0 | 8<br>5.8 | 20<br>14.4 | 17<br>12.2 | 32<br>23.0 | 18<br>12.9 | 10<br>7.2 | 16<br>11.5 | 7<br>5.0 | 4<br>2.9 | | | 139<br>100 | 139 |
| | 2 | 南南<br>(170°E以東) | 5—11N<br>170E—180 | 43 | | | | | 9<br>1.4 | 62<br>10.0 | 71<br>11.4 | 73<br>11.8 | 178<br>28.7 | 141<br>22.7 | 61<br>9.8 | 19<br>3.1 | 5<br>0.8 | 1<br>0.2 | 1<br>0.2 | 621<br>100 | 621 |
| | 4 | 南南<br>(170°E以西) | 2—10N<br>157—169E | 72 | | | | | 2<br>0.4 | 9<br>1.9 | 15<br>3.2 | 41<br>8.8 | 139<br>29.9 | 143<br>30.8 | 73<br>15.7 | 13<br>2.8 | 7<br>1.5 | 1<br>0.2 | 22<br>4.7 | 465<br>100 | 1788 |
| | 8 | ソロモン | 0—10S<br>141—163E | 139 | | | | 3<br>0.1 | 19<br>0.8 | 37<br>1.6 | 283<br>12.2 | 829<br>35.7 | 699<br>30.1 | 289<br>12.5 | 117<br>5.0 | 36<br>1.6 | 8<br>0.3 | 1 | | 2321<br>100 | 11458 |
| | 8 | ニューカレドニア | 7—29S<br>147—158E | 222 | | | | 1<br>0.1 | 5<br>0.5 | 11<br>1.0 | 1<br>0.1 | 8<br>0.7 | 130<br>12.1 | 269<br>25.0 | 386<br>35.9 | 221<br>20.6 | 37<br>3.4 | 5<br>0.5 | | 1074<br>100 | 9734 |
| | 1 | ニュージーランド | 36—38S<br>178E—180 | 17 | | | | | | | | | 1<br>2.9 | 7<br>20.6 | 17<br>50.0 | 7<br>20.6 | 2<br>5.9 | | | 34<br>100 | 34 |
| | 3 | バンダ | 3—8S<br>123—132E | 51 | | | | | 5<br>0.9 | 25<br>4.3 | 49<br>8.5 | 14<br>2.4 | 140<br>24.3 | 156<br>27.1 | 128<br>22.3 | 48<br>8.3 | 9<br>1.6 | 1<br>0.2 | | 575<br>100 | 2561 |
| | 2 | 小スンダ | 8—12S<br>117—129E | 39 | | | | | 11<br>2.4 | 9<br>2.0 | 32<br>7.1 | 19<br>4.2 | 132<br>29.2 | 107<br>23.7 | 80<br>17.7 | 50<br>11.1 | 12<br>2.7 | | | 452<br>100 | 1692 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | | 60cm以下 | 61—70 | 71—80 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181cm以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | スマトラ | 7—10S 89—103E | 34 | | | | | 21 | 17 | 2 | 10 | 84 | 107 | 37 | 33 | 15 | 1 | | 327 | 1234 |
| | | | | | | | | | 6.4 | 5.2 | 0.6 | 3.1 | 25.7 | 32.7 | 11.3 | 10.1 | 4.6 | 0.3 | | 100 | |
| | 2 | 濠洲西方 | 15—21S 113—118E | 19 | | | | | | | | 1 | 16 | 149 | 99 | 94 | 17 | 3 | | 379 | 1107 |
| | | | | | | | | | | | | 0.3 | 4.2 | 39.3 | 26.1 | 24.7 | 4.5 | 0.8 | | 100 | |
| | 3 | 中部印度洋 | 4—11S 72—90E | 80 | | | | | 23 | | | 9 | 144 | 240 | 171 | 167 | 43 | 3 | | 800 | 3756 |
| | | | | | | | | | 2.9 | | | 1.1 | 18.0 | 30.0 | 21.4 | 20.9 | 5.4 | 0.4 | | 100 | |
| め | 6 | ガラパゴス | 7—11S 123—109W | 160 | 尾数 | | | | | | 6 | 8 | 25 | 48 | 126 | 169 | 249 | 183 | 93 | 907 | 11141 |
| | | | | | % | | | | | | 0.7 | 0.9 | 2.8 | 5.3 | 13.9 | 18.6 | 27.5 | 20.2 | 10.3 | 100 | |
| | 5 | 30—40N 180—140W | 30—34N 180—151W | 121 | | | 2 | 9 | 41 | 175 | 56 | 146 | 544 | 284 | 51 | 59 | 34 | 16 | 52 | 1469 | 4961 |
| | | | | | | | 0.1 | 0.6 | 2.8 | 11.9 | 3.8 | 9.9 | 37.0 | 19.3 | 3.5 | 4.0 | 2.3 | 1.1 | 3.5 | 100 | |
| | 1 | ハワイ南西(5°N以北) | 6—10N 176—171W | 25 | | | | | | | | 22 | 23 | 1 | 3 | 4 | 1 | | | 54 | 844 |
| | | | | | | | | | | | | 40.7 | 42.6 | 1.9 | 5.6 | 7.4 | 1.9 | | | 100 | |
| | 1 | 0—15S 160—140W | 0—1S 160—159W | 16 | | | | | | 6 | 11 | 110 | 69 | 50 | 33 | 50 | 18 | 6 | 1 | 354 | 354 |
| | | | | | | | | | | 1.7 | 3.1 | 31.1 | 19.5 | 14.1 | 9.3 | 14.1 | 5.1 | 1.7 | 0.3 | 100 | |
| | 1 | タヒチ | 17—19S 148—144W | 19 | | | | | | 1 | | 5 | 4 | 6 | 4 | 6 | 9 | 1 | 1 | 37 | 37 |
| | | | | | | | | | | 2.7 | | 13.5 | 10.8 | 16.2 | 10.8 | 16.2 | 24.3 | 2.7 | 2.7 | 100 | |
| | 5 | 30—35N 150—180E | 30—35N 150—164E | 83 | | | | | 6 | 38 | 6 | 106 | 130 | 81 | 20 | 26 | 10 | 4 | 1 | 429 | 941 |
| | | | | | | | | | 1.4 | 8.9 | 1.4 | 24.7 | 30.3 | 18.9 | 4.7 | 6.1 | 2.3 | 0.9 | 0.2 | 100 | |
| | 3 | 西部太平洋 | 20—30N 141—164E | 51 | | | 28 | 8 | 10 | 78 | 8 | 59 | 71 | 42 | 44 | 47 | 4 | 1 | | 400 | 400 |
| | | | | | | | 7.0 | 2.0 | 2.5 | 19.5 | 2.0 | 14.8 | 17.8 | 10.5 | 11.0 | 11.8 | 1.0 | 0.3 | | 100 | |
| ば | 2 | 南　南(170°E以東) | 1—11N 171E—180 | 32 | | | | | | 2 | 18 | 74 | 109 | 61 | 34 | 14 | 6 | 5 | 4 | 327 | 1001 |
| | | | | | | | | | | 0.6 | 5.5 | 22.6 | 33.3 | 18.7 | 10.4 | 4.3 | 1.8 | 1.5 | 1.2 | 100 | |
| | 4 | 南　南(170°E以西) | 2—10N 157—169E | 72 | | | 1 | 1 | 9 | 33 | 81 | 283 | 147 | 89 | 49 | 18 | 3 | 2 | 1 | 717 | 2378 |
| | | | | | | | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 4.6 | 11.3 | 39.5 | 20.5 | 12.4 | 6.8 | 2.5 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | 100 | |
| | 8 | ソロモン | 0—10S 141—163E | 139 | | | 9 | 1 | 68 | 158 | 224 | 234 | 89 | 76 | 37 | 14 | 1 | 1 | 3 | 915 | 1485 |
| | | | | | | | 1.0 | 0.1 | 7.4 | 17.3 | 24.5 | 25.6 | 9.7 | 8.3 | 4.0 | 1.5 | 0.1 | 0.1 | 0.3 | 100 | |
| | 5 | ニューカレドニア | 8—29S 148—158E | 142 | | | | | | 3 | 12 | 19 | 6 | 15 | 6 | 11 | 8 | 4 | | 84 | 450 |
| | | | | | | | | | | 3.6 | 14.3 | 22.6 | 7.1 | 17.9 | 7.1 | 13.1 | 9.5 | 4.8 | | 100 | |
| | 1 | ニュージーランド | 36—38S 178E—180 | 17 | | | | | | | | 2 | | 4 | 11 | 8 | 6 | 3 | 1 | 35 | 35 |
| | | | | | | | | | | | | 5.7 | | 11.4 | 31.4 | 22.9 | 17.1 | 8.6 | 2.9 | 100 | |
| ち | 3 | バンダ | 3—8S 123—132E | 51 | | | | | 2 | | 5 | 5 | 43 | 90 | 53 | 25 | 3 | | | 226 | 1208 |
| | | | | | | | | | 0.9 | | 2.2 | 2.2 | 19.0 | 39.8 | 23.5 | 11.1 | 1.3 | | | 100 | |

| 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | | | | | | | | | | | | | | | | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 小スンダ | 8—16S<br>117—129E | 27 | | | 1<br>0.8 | 3<br>2.4 | 5<br>3.9 | 5<br>3.9 | 13<br>10.2 | 15<br>11.8 | 26<br>20.5 | 32<br>25.2 | 21<br>16.5 | 4<br>3.1 | 2<br>1.6 | | | 127<br>100 | 205 |
| 1 | スマトラ | 7—10S<br>89—103E | 34 | | | | | 1<br>0.3 | 25<br>8.6 | 16<br>5.5 | 45<br>15.5 | 62<br>21.4 | 74<br>25.5 | 46<br>15.9 | 19<br>6.6 | 1<br>0.3 | 1<br>0.3 | | 290<br>100 | 1098 |
| 3 | 中部印度洋 | 4—11S<br>72—90E | 80 | | | | | 3<br>0.5 | 37<br>6.0 | 36<br>5.9 | 57<br>9.3 | 106<br>17.2 | 146<br>23.7 | 129<br>21.0 | 68<br>11.1 | 29<br>4.7 | 4<br>0.7 | | 615<br>100 | 1878 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | | 40cm以下 | 41—50 | 51—60 | 61—70 | 71—80 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121cm以上 | | | | | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| びんなが | 4 | 30—40N<br>180—140W | 30—35N<br>180—158W | 82 | 尾数<br>% | | | | | 2<br>0.4 | 143<br>25.9 | 279<br>50.5 | 119<br>21.6 | 5<br>0.9 | 4<br>0.7 | | | | | 552<br>100 | 1167 |
| | 3 | 30—35N<br>150—180E | 30—35N<br>157—163E | 54 | | | | | 6<br>3.0 | 32<br>16.2 | 103<br>52.3 | 33<br>16.8 | 13<br>6.6 | 10<br>5.1 | | | | | | 197<br>100 | 825 |
| | 3 | 西部太平洋 | 20—30N<br>141—164E | 51 | | | | | | 16<br>13.7 | 28<br>23.9 | 44<br>37.6 | 22<br>18.8 | 7<br>6.0 | | | | | | 117<br>100 | 712 |
| | 3 | ソロモン | 5—15S<br>144—159E | 52 | | | | | | 1<br>1.3 | 26<br>34.7 | 47<br>62.7 | 1<br>1.3 | | | | | | | 75<br>100 | 315 |
| | 5 | ニューカレドニア | 15—24S<br>152—158E | 93 | | | | | | 14<br>2.5 | 176<br>31.9 | 318<br>57.6 | 44<br>8.0 | | | | | | | 552<br>100 | 2297 |
| | 1 | ニュージーランド | 36—38S<br>178E—180 | 17 | | | | | 15<br>8.5 | 125<br>71.0 | 32<br>18.2 | 3<br>1.7 | 1<br>0.6 | | | | | | | 176<br>100 | 688 |
| | 2 | 小スンダ | 10—16S<br>117—119E | 34 | | | | | | | 23<br>15.4 | 90<br>60.4 | 33<br>22.1 | 3<br>2.0 | | | | | | 149<br>100 | 199 |
| | 1 | スマトラ | 7—10S<br>89—103E | 34 | | | | | | | | 42<br>51.9 | 38<br>46.9 | 1<br>1.2 | | | | | | 81<br>100 | 730 |
| | 1 | 濠洲西方 | 14—23S<br>113—120E | 20 | | | | | | 2<br>4.1 | 11<br>22.4 | 36<br>73.5 | | | | | | | | 49<br>100 | 65 |
| | 1 | 中部印度洋 | 7—11S<br>81—88E | 39 | | | | | | | | 34<br>33.7 | 66<br>65.3 | 1<br>1.0 | | | | | | 101<br>100 | 1054 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | | 80cm以下 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201cm以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いん | 3 | チヤタム | 35—40S<br>180—176W | 41 | | | | 19<br>2.7 | 101<br>14.3 | 131<br>18.6 | 197<br>27.9 | 151<br>21.4 | 78<br>11.1 | 27<br>3.8 | 1<br>0.1 | | | | | 705<br>100 | 4862 |
| | 1 | ニュージーランド | 36—38S<br>178E—180 | 17 | | | | 2<br>0.4 | 3<br>0.6 | 87<br>17.7 | 264<br>53.7 | 111<br>22.6 | 19<br>3.9 | 5<br>1.0 | 1<br>0.2 | 1<br>0.2 | | | | 492<br>100 | 1635 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | | 130 cm 以下 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201—210 | 211—220 | 221—230 | 231—240 | 241—250 | 251—260 | 261 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ど | 2 | 小スンダ | 10—16S<br>117—119E | 34 | | | | | | | | | 2<br>0.7 | 48<br>17.6 | 122<br>44.9 | 85<br>31.3 | 13<br>4.8 | 1<br>0.4 | 1<br>0.4 | | 272<br>100 | 794 |
| | 5 | ガラパゴス | 7—11S<br>123—113W | 143 | 尾数<br>% | | | 2<br>1.5 | 3<br>2.2 | 16<br>11.8 | 10<br>7.4 | 24<br>17.6 | 20<br>14.7 | 16<br>11.8 | 9<br>6.6 | 15<br>11.0 | 10<br>7.4 | 5<br>3.7 | 5<br>3.7 | 1<br>0.7 | 136<br>100 | 726 |
| | 3 | 30—40N<br>180—140W | 30—34N<br>180—158W | 65 | | | | | | | | | 1<br>25.0 | | 1<br>25.0 | 1<br>25.0 | 1<br>25.0 | | | | 4<br>100 | 6 |
| | 1 | 0—15S<br>160—140W | 0—1S<br>160—159W | 16 | | | 1<br>2.9 | 4<br>11.4 | 8<br>22.9 | 7<br>20.0 | 3<br>8.6 | 1<br>2.9 | 2<br>5.7 | 2<br>5.7 | 1<br>2.9 | 1<br>2.9 | 3<br>8.6 | | 2<br>5.7 | | 35<br>100 | 57 |
| く | 1 | タヒチ | 17—19S<br>148—144W | 19 | | | | 4<br>1.8 | 5<br>2.3 | 44<br>20.1 | 50<br>22.8 | 49<br>22.4 | 16<br>7.3 | 8<br>3.7 | 9<br>4.1 | 11<br>5.0 | 8<br>3.7 | 7<br>3.2 | 7<br>3.2 | 1<br>0.5 | 219<br>100 | 403 |
| | 4 | 30—35N<br>150E—180 | 33—35N<br>150—164E | 63 | | | 4<br>36.4 | 3<br>27.3 | 1<br>9.1 | | | | | 1<br>9.1 | | 2<br>18.2 | | | | | 11<br>100 | 11 |
| | 3 | 西部太平洋 | 20—30N<br>141—164E | 51 | | | 1<br>5.9 | | | 1<br>5.9 | 1<br>5.9 | 1<br>5.9 | 5<br>29.4 | 3<br>17.6 | 2<br>11.8 | 2<br>11.8 | 1<br>5.9 | | | | 17<br>100 | 17 |
| ろ | 1 | 南 南<br>(170°E以東) | 6—11N<br>170E—180 | 20 | | 3<br>6.4 | 2<br>4.3 | 3<br>6.4 | 8<br>17.0 | 10<br>21.3 | 5<br>10.6 | 1<br>2.1 | 2<br>4.3 | 2<br>4.3 | 3<br>6.4 | 2<br>4.3 | 4<br>8.5 | 1<br>2.1 | | 1<br>2.1 | 47<br>100 | 47 |
| | 3 | 南 南<br>(170°E以西) | 9—15N<br>157—164E | 54 | | 7<br>7.7 | 9<br>9.9 | 22<br>24.2 | 26<br>28.6 | 12<br>13.2 | | 2<br>2.2 | 4<br>4.4 | 2<br>2.2 | 2<br>2.2 | 2<br>2.2 | 2<br>2.2 | | 1<br>1.1 | | 91<br>100 | 176 |
| か | 8 | ソロモン | 0—10S<br>141—163E | 139 | | 13<br>3.9 | 24<br>7.3 | 62<br>18.7 | 55<br>16.6 | 81<br>24.5 | 23<br>6.9 | 27<br>8.2 | 17<br>5.1 | 9<br>2.7 | 7<br>2.1 | 3<br>0.9 | 4<br>1.2 | 2<br>0.6 | 1<br>0.3 | 3<br>0.9 | 331<br>100 | 412 |
| | 8 | ニューカレドニア | 7—29S<br>147—158E | 196 | | 3<br>1.0 | 7<br>2.4 | 19<br>6.5 | 30<br>10.2 | 71<br>24.1 | 28<br>9.5 | 23<br>7.8 | 25<br>8.5 | 24<br>8.2 | 31<br>10.5 | 12<br>4.1 | 8<br>2.7 | 6<br>2.0 | 3<br>1.0 | 4<br>1.4 | 294<br>100 | 683 |
| | 3 | バンダ | 3—8S<br>123—132E | 51 | | 1<br>2.3 | | | 2<br>4.7 | 9<br>20.9 | 10<br>23.3 | 9<br>20.9 | 4<br>9.3 | 2<br>4.7 | 1<br>2.3 | 1<br>2.3 | 1<br>2.3 | 1<br>2.3 | | 2<br>4.7 | 43<br>100 | 199 |
| わ | 1 | 小スンダ | 8—10S<br>125—129E | 16 | | | 1<br>4.8 | | 1<br>4.8 | 5<br>23.8 | 3<br>14.3 | 1<br>4.8 | 7<br>33.3 | | | 1<br>4.8 | | 1<br>4.8 | | 1<br>4.8 | 21<br>100 | 21 |
| | 1 | スマトラ | 7—10S<br>89—103E | 34 | | | 1<br>3.0 | | 2<br>6.1 | 7<br>21.2 | 3<br>9.1 | 5<br>15.2 | 2<br>6.1 | 3<br>9.1 | 1<br>3.0 | 3<br>9.1 | 5<br>15.2 | | | 1<br>3.0 | 33<br>100 | 61 |
| | 2 | 濠洲西方 | 14—23S<br>113—120E | 30 | | | | 2<br>9.1 | | 4<br>18.2 | 1<br>4.5 | 5<br>22.7 | 2<br>9.1 | | 3<br>13.6 | 2<br>9.1 | 2<br>9.1 | | | 1<br>4.5 | 22<br>100 | 47 |
| | 3 | 中部印度洋 | 4—11S<br>72—90E | 80 | | | 1<br>0.5 | 5<br>2.3 | 24<br>11.2 | 58<br>27.0 | 38<br>17.7 | 27<br>12.6 | 13<br>6.0 | 10<br>4.7 | 16<br>7.4 | 6<br>2.8 | 12<br>5.6 | 2<br>0.9 | 2<br>0.9 | 1<br>0.5 | 215<br>100 | 397 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 尾数 % | 130 cm 以下 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201—210 | 211—220 | 221—230 | 231—240 | 241—250 | 251—260 | 261 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 5 | ガラパゴス | 7—11S<br>123—113W | 143 | | | | 1<br>4.8 | | | | | 1<br>4.8 | 1<br>4.8 | 2<br>9.5 | 5<br>23.8 | 4<br>19.0 | 4<br>19.0 | | 3<br>14.3 | 21<br>100 | 79 |
| | 1 | 0—15S<br>160—140W | 0—1S<br>160—159W | 16 | | | | | | 1<br>100 | | | | | | | | | | | 1<br>100 | 1 |
| し | 1 | タヒチ | 17—19S<br>148—144W | 19 | | | | | | | | | | 1<br>50.0 | | 1<br>50.0 | | | | | 2<br>100 | 3 |
| | 1 | 30—35N<br>150E—180 | 30—34N<br>158—160E | 13 | | | | 4<br>18.2 | 2<br>9.1 | 4<br>18.2 | 7<br>31.8 | 3<br>13.6 | | | 1<br>4.5 | 1<br>4.5 | | | | | 22<br>100 | 22 |
| | 1 | 南<br>(170°E以東) | 6—11N<br>171E—180 | 20 | | | | | | | | 1<br>25.0 | 2<br>50.0 | | | | | 1<br>25.0 | | | 4<br>100 | 4 |
| ろ | 1 | 南<br>(170°E以西) | 2—5N<br>159—163E | 23 | | | | | | | | 1<br>50.0 | | | | 1<br>50.0 | | | | | 2<br>100 | 21 |
| | 8 | ソロモン | 0—9S<br>141—163E | 134 | | | | 7<br>5.8 | 11<br>9.2 | 12<br>10.0 | 7<br>5.8 | 14<br>11.7 | 13<br>10.8 | 21<br>17.5 | 17<br>14.2 | 6<br>5.0 | 2<br>1.7 | 6<br>5.0 | | 4<br>3.3 | 120<br>100 | 120 |
| | 8 | カレドニア | 7—29S<br>147—158E | 196 | | | | 1<br>0.9 | 8<br>7.1 | 11<br>9.6 | 3<br>2.6 | 18<br>15.8 | 18<br>15.8 | 10<br>8.8 | 6<br>5.3 | 7<br>6.1 | 5<br>4.4 | 4<br>3.5 | 3<br>2.6 | 20<br>17.5 | 114<br>100 | 662 |
| か | 3 | バンダ | 3—8S<br>123—132E | 51 | | 1<br>1.5 | 5<br>7.4 | 9<br>13.2 | 9<br>13.2 | 4<br>5.9 | 8<br>11.8 | 9<br>13.2 | 8<br>11.8 | 7<br>10.3 | 4<br>5.9 | 1<br>1.5 | 2<br>2.9 | | | 1<br>1.5 | 68<br>100 | 70 |
| | 2 | 小スンダ | 8—12S<br>117—129E | 39 | | 1<br>1.3 | 3<br>3.9 | 13<br>16.9 | 5<br>6.5 | 5<br>6.5 | 15<br>19.5 | 11<br>14.3 | 12<br>15.6 | 3<br>3.9 | 5<br>6.5 | 2<br>2.6 | | 2<br>2.6 | | | 77<br>100 | 92 |
| わ | 1 | スマトラ | 7—10S<br>89—103E | 34 | | | 1<br>2.9 | 2<br>5.7 | 4<br>11.4 | 2<br>5.7 | 2<br>5.7 | 4<br>11.4 | 6<br>17.1 | 7<br>20.0 | 2<br>5.7 | | 3<br>8.6 | 1<br>2.9 | 1<br>2.9 | | 35<br>100 | 62 |
| | 2 | 濠洲西方 | 14—23S<br>113—120E | 42 | | 1<br>1.2 | 2<br>2.4 | 5<br>6.0 | 14<br>16.7 | 6<br>7.1 | 5<br>6.0 | 8<br>9.5 | 7<br>8.3 | 7<br>8.3 | 9<br>10.7 | 8<br>9.5 | 7<br>8.3 | 3<br>3.6 | 2<br>2.4 | | 84<br>100 | 187 |
| | 3 | 中部印度洋 | 4—11S<br>72—90E | 80 | | 1<br>1.0 | | 6<br>5.9 | 9<br>8.9 | | 2<br>2.0 | 19<br>18.8 | 10<br>9.9 | 21<br>20.8 | 18<br>17.8 | 8<br>7.9 | 1<br>1.0 | 2<br>2.0 | 1<br>1.0 | 3<br>3.0 | 101<br>100 | 173 |

| 魚種 | 測定船数 | 漁場 | 操業位置 | 操業回数 | 100 cm 以下 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201—210 | 211—220 | 221—230 | 231 cm 以上 | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3 | ガラパゴス | 7—11S<br>123—113W | 91 | | | | | 1<br>3.0 | 1<br>3.0 | 7<br>21.2 | 2<br>6.1 | | 7<br>21.2 | 8<br>24.2 | 3<br>9.1 | 3<br>9.1 | 1<br>3.0 | | 33<br>100 | 51 |
| ま | 6 | 30—40N<br>180—140W | 30—35N<br>180—151W | 132 | | | | | 1<br>1.2 | | | 3<br>3.5 | 20<br>23.3 | 47<br>54.7 | 13<br>15.1 | 2<br>2.3 | | | | 86<br>100 | 144 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 0—15S<br>160—140W | 0—1S<br>160—159W | 16 | | | | | | | 3<br>21.4 | | 5<br>35.7 | 3<br>21.4 | 2<br>14.3 | 1<br>7.1 | | | | 14<br>100 | 14 |
| | 1 | タヒチ | 17—19S<br>148—144W | 19 | | | | | | | | | 1<br>20.0 | 2<br>40.0 | 1<br>20.0 | 1<br>20.0 | | | | 5<br>100 | 5 |
| か | 2 | 30—35N<br>150E—180 | 33—35N<br>158—164E | 35 | | | | | 1<br>9.1 | | 2<br>18.2 | | 4<br>36.4 | 3<br>27.3 | 1<br>9.1 | | | | | 11<br>100 | 11 |
| | 3 | 西部太平洋 | 20—30N<br>141—164E | 51 | | | | 1<br>0.8 | 5<br>3.8 | 9<br>6.9 | 49<br>37.4 | 41<br>31.3 | 21<br>16.0 | 4<br>3.1 | 1<br>0.8 | | | | | 131<br>100 | 131 |
| | 1 | 南　南<br>(170°E以東) | 6—11N<br>171E—180 | 20 | | | | | 2<br>18.2 | 1<br>9.1 | 6<br>54.5 | 1<br>9.1 | 1<br>9.1 | | | | | | | 11<br>100 | 11 |
| | 2 | 南　南<br>(170°E以西) | 3—10N<br>157—164E | 31 | | | | 1<br>6.3 | 4<br>25.0 | 6<br>37.5 | 5<br>31.3 | | | | | | | | | 16<br>100 | 26 |
| じ | 4 | ソロモン | 0—4S<br>141—163E | 65 | | | | | | | | | 1<br>14.3 | 4<br>57.1 | 2<br>28.6 | | | | | 7<br>100 | 10 |
| | 9 | ニューカレドニア | 7—29S<br>147—158E | 212 | | | | | 7<br>1.1 | 50<br>8.1 | 46<br>7.5 | 18<br>2.9 | 5<br>0.8 | 23<br>3.7 | 170<br>27.6 | 223<br>36.1 | 64<br>10.4 | 4<br>0.6 | 7<br>1.1 | 617<br>100 | 2019 |
| | 1 | ニュージーランド | 36—38S<br>178E—180 | 17 | | | | | | | | | | 1<br>5.3 | 5<br>26.3 | 9<br>47.4 | 1<br>5.3 | | 3<br>15.8 | 19<br>100 | 19 |
| | 2 | バンダ | 4—7S<br>123—132E | 35 | | | 23<br>47.0 | | 1<br>2.0 | 24<br>49.0 | 1<br>2.0 | | | | | | | | | 49<br>100 | 49 |
| き | 2 | 小スンダ | 8—12S<br>117—129E | 39 | | | | | 30<br>50.8 | 9<br>15.3 | 18<br>30.5 | 1<br>1.7 | 1<br>1.7 | | | | | | | 59<br>100 | 66 |
| | 1 | スマトラ | 7—10S<br>89—103E | 34 | | | | 1<br>1.8 | 10<br>17.5 | 9<br>15.8 | 4<br>7.0 | 2<br>3.5 | 10<br>17.5 | 14<br>24.6 | 7<br>12.3 | | | | | 57<br>100 | 112 |
| | 2 | 濠洲西方 | 14—23S<br>113—120E | 29 | | | | 1<br>1.1 | 32<br>35.6 | 14<br>15.6 | 26<br>28.9 | 8<br>8.9 | 6<br>6.7 | 2<br>2.2 | | 1<br>1.1 | | | | 90<br>100 | 104 |
| | 3 | 中部印度洋 | 4—11S<br>72—90E | 80 | | | | 11<br>5.3 | 11<br>5.3 | 2<br>1.0 | 4<br>1.9 | 12<br>5.7 | 59<br>28.2 | 84<br>40.2 | 25<br>12.0 | 1<br>0.5 | | | | 209<br>100 | 515 |

| 魚種 〃 | 測定船数 〃 | 漁場 〃 | 操業位置 〃 | 操業回数 〃 | 80 cm以下 | 81—90 | 91—100 | 101—110 | 111—120 | 121—130 | 131—140 | 141—150 | 151—160 | 161—170 | 171—180 | 181—190 | 191—200 | 201 cm以上 | | 計 | 漁獲尾数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3 | 30—40N<br>180—140W | 30—35N<br>180—165W | 55 | | | 3<br>6.5 | | 4<br>8.7 | 3<br>6.5 | 6<br>13.0 | 5<br>10.9 | 2<br>4.3 | 7<br>15.2 | 6<br>13.0 | 3<br>6.5 | 3<br>6.5 | 4<br>8.7 | | 46<br>100 | 69 |
| め | 1 | 30—35N<br>150W—180 | 33—35N<br>160—164E | 22 | | | 2<br>11.1 | | 2<br>11.1 | 3<br>16.7 | 2<br>11.1 | 4<br>22.2 | 1<br>5.6 | 2<br>11.1 | | 1<br>5.6 | | 1<br>5.6 | | 18<br>100 | 18 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| かじき | 3 | 西部太平洋 | 20—30N<br>141—164E | 51 | | | | | 1<br>1.0 | 7<br>6.9 | 29<br>28.4 | 22<br>21.6 | 20<br>19.6 | 3<br>2.9 | 12<br>11.8 | 2<br>2.0 | 3<br>2.9 | | 3<br>2.9 | | 102<br>100 | 102 |
| | 1 | 南　　南<br>(170°E以東) | 6—11N<br>171—180E | 20 | | 6<br>75.0 | 1<br>12.5 | | | | | | | | | | 1<br>12.5 | | | | 8<br>100 | 9 |
| | 1 | ソロモン | 2—3S<br>143—145E | 12 | | | | 1<br>25.0 | | | 1<br>25.0 | | | 1<br>25.0 | | 1<br>25.0 | | | | | 4<br>100 | 4 |
| | 2 | ニュー<br>カレドニア | 15—24S<br>152—156E | 29 | | 5<br>26.3 | | | 1<br>5.3 | | | 1<br>5.3 | | 7<br>36.8 | | 4<br>21.1 | 1<br>5.3 | | | | 19<br>100 | 19 |
| | 2 | バンダ | 3—8S<br>123—132E | 32 | | | | | | | | 2<br>66.7 | | | | | | | 1<br>33.3 | | 3<br>100 | 8 |
| | 2 | 小スンダ | 8—12S<br>117—129E | 39 | | | | | 1<br>8.3 | | 2<br>16.7 | 2<br>16.7 | 2<br>16.7 | 2<br>16.7 | 1<br>8.3 | | 1<br>8.3 | 1<br>8.3 | | | 12<br>100 | 17 |
| | 1 | スマトラ | 7—10S<br>89—103E | 34 | | | | | 1<br>6.3 | 1<br>6.3 | 3<br>18.8 | 2<br>12.5 | 2<br>12.5 | 1<br>6.3 | 1<br>6.3 | 1<br>6.3 | 3<br>18.8 | | 1<br>6.3 | | 16<br>100 | 16 |
| | 1 | 中部印度洋 | 7—11S<br>81—88E | 39 | | | | 1<br>25.0 | | | 1<br>25.0 | | | 1<br>25.0 | | 1<br>25.0 | | | | | 4<br>100 | 6 |


暑　中　御　伺　　昭和三十三年 盛夏

諸官庁船・遠洋漁船・御用

創業五十年
最良の品質　を誇る　株式会社　安保商店
最善のサービス

▷三崎御入港の節は何卒
御引立の程御願い致します◁

電話（三浦）3216番

暑中御伺い申し上げます　　昭和三十三年盛夏


# 漁船の氷、餌料の仕込は

三崎漁連へ　砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎・花暮岸壁）

凍結能力　日産 一七屯 ―――― 冷蔵収容量 六〇〇屯
製氷能力　日産 五〇屯 ―――― 貯氷能力 五五〇屯

## 三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正一

神奈川県三浦市三崎港　TEL（三浦）2609・2655番

---

神奈川縣鰹鮪漁業者協会

会長 菅野進
主事 水戸邦雄

神奈川県三浦市三崎町
電話三三七五番

---

合成繊維とマニラ麻の
漁網・ロープ・岩糸・延縄
古い伝統・新らしい技術「品質本意」

市川漁網製造株式会社

愛知県宝飯郡形原町
電話一一〇・四七〇番

---

（遠）
製氷冷蔵・凍結餌料

三崎遠洋漁船製氷株式会社

取締役社長 四宮秀雄
取締役副社長 米沢六蔵

三浦市三崎町向ケ崎
電話（三浦）三三五六・三三七二番

# 暑中御伺

昭和三十三年 盛夏

## ㊀生 神奈川県鰹鮪漁業協同組合販賣所

組合長 寺本正市

神奈川縣三浦市三崎港
電話(三浦) 2217・2705・3039

---

## 昭和漁業株式会社

本社 静岡県焼津市城の腰一一五の一
電話(代表)二一三一番

---

## 用宗遠洋漁業株式會社

静岡縣静岡市用宗一三一八

---

## 焼津遠洋漁業協同組合

静岡縣焼津市中二三〇

---

小島大黒丸

## 小島政夫

神奈川縣三浦市三崎町仲崎一六一
電話二二〇三番

---

山村大黒丸

## 山村利久

神奈川縣三浦市三崎町花暮一六三
電話二〇六二・三〇七一番

---

崎吉丸

## 崎島理平

神奈川縣三浦市三崎町
電話二五九〇番

暑中御伺い申し上げます　昭和三十三年盛夏

ハンシンディーゼル
船舶用・発電用・動力用 65〜3500HP

阪神三菱横浜
可変ピッチプロペラ
製造・販売

**阪神内燃機工業株式会社**

本社工場　神戸市長田区一番町三丁目　電話(5)1531—6
東京支店　東京都千代田区丸ノ内丸ビル　電話(20)3640—1
下關出張所　下關市豊前田町オービル　電話下關768

取締役社長　小曾根眞造

鋼製漁船・貨客船
指導船の建造並に修理

株式会社　三保造船所

取締役社長　植田明八

本社工場　清水市三保三七九七番地
電話清水(2)代表二二〇一
東京事務所　東京都中央區八重洲三の七番
東京建物ビル七〇五号
電話千代田(27)五三三・七七三・七九一

光榮丸

金澤德尾

神奈川県三浦市三崎町花暮一三二
電話二三二一・二八三六番

寶幸水産株式会社

本社　東京都中央区新富町三の二
三崎營業所　三浦市三崎町宮城五

第六幸漁丸
第七幸漁丸
第八幸漁丸

荻布漁業部

荻布貞雄

高岡市片原横町一〇八七

神奈川県立三崎水産高等学校長
全國水産高等学校実習船運営協議會理事長
全國水産高等学校長會水産部會理事長

鯉沼英吉

三浦市三崎町小網代字城の内一一〇八
電話(三浦)二五五〇番

漁業・水産物賣買
製氷・冷藏・冷凍・貿易

琉球水産株式会社

社長　長嶺彥昌

那覇市西新町二の七　電話(代表)一一九一
東京連絡所(株)興南社
東京都中央区京橋一の五中央企畫ビル
電話(56)三〇二三・三〇二四番

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空氣凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵

設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話　東京(866)0996・0997番



比重調整
樹脂加工　クレモナまぐろロープ

特徴
① まぐろの喰ひ良い
② 毎航海のタール染不要
③ 他の追随を許さぬ耐久力と耐摩耗力

営業種目……クレモナ、綿延縄及仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテツクスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978・7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 2957番

# 「いわゆる公海自由」と真の「公海自由」との相違について

酒　井　謙　二　（米国マイアミ大学海洋研究所海外嘱託）

北太平洋における国際漁業条約網

ヨーロッパにおける国際漁業条約網

## 海洋法制定の意義

昭和33年2月18日の朝日新聞「論壇」はソ連海洋法研究家府本昌芳の「海洋法制定の意義…歴史の流れを認識せよ」と題する投書を載せていた．その要部を綴り合わせれば下の如くである．

「いうまでもなくわれわれが会議（海洋法会議）に望むところは，こんど出来上る法典が国連憲章の精神に基き，海洋自由の原則で貫かれることであろう．洋上で船舶の自由を守ることは，机上で法を論ずるほど容易なことではない．船乗りの生命は利害を超越，法や国境を無視した人類愛によってのみ全うすることができる．航海者の立場から見れば——海洋の自由は，主観的な観念の中に収められる論題でなく，客観世界の内に求めねばならぬ現実である——と私は考えている．

さてこんどの「法案」は公海漁業に関する規制を大きく取り上げ，また領海の幅を増大する傾向も認めているので，これが日本の海洋発展を妨げるかのように思う人々もあるようだ．だが沿海国の主権が法的処置の形で洋上遠くまで及ぶようになったのは，戦争による海上武力の変動や，科学の進歩に基く海洋史的の傾向であり，「帝国日本」のノスタルジアでは押し止めることのできない歴史の流れである．かりに諸外国がその主観によって，公海自由の原則を実際にわが近海まで推し進めたらどうなるであろう？　ソ連の漁船がわが近海を占有することは，非現実な予想であっても，原子炉の廃棄物を「日本海溝」に沈めることは差し迫った問題であり，その場合日本も公海に規制を求める立場をとることになるであろう．また「領海12カイリ」を主張するソビエトと相対する日本が「3カイリ」を固守してみても，北海道の海上保安に著しい不利を被り，千島沿海の安全操業すら思うに任せぬことになるというのが現実ではなかろうか．日本のサケマス漁業は，米ソ両国からきょう撃されている現状なのだから将来北洋漁場の管理は国連機関に委託される道を歩むことになるのではなかろうか．こう考えて行けば，世界の客観状勢は日本自体のためにも，公海上における国際的制約を求めていることが分る．これが原則的に日本の利益と相反するものでないことは明らか

である．日本はかつて大艦隊を浮べ，その力に頼って海洋政策を推し進めていた．東西のかけ橋を願う日本は，インドネシアの領海宣言や，セイロンの大陸棚確保に関する声明に現われた「アジアの声」をつつましく聞き取ることが肝要だろう．」マグロ資源の調査に直接に精魂を打ち込んでおられる本会会員諸賢は，例えばキハダマグロはかかる習性を持たなければならぬものだという主観性を離れて，客観的にキハダマグロという魚と取り組んでおられることは言うまでもなかろう．根本氏の論文は，世界の中にある日本を同様に客観的に眺めている．氏が挙げた「戦争」は今次の大戦のみを指すのではない．なお氏が挙げた「海洋史的傾向」の大きなものの一つは，新興国および漁業における後進国おしなべての自国の漁業発展への意欲のぼっ興である．

客観世界に逆行する日本の言論界

日本においては1954年の暮と1955年の暮に，政府の事務当局が資源の状態を考慮して編んだと思われる案さえ国務大臣から無視ないしは軽視されて，北洋にぼう大なサケマス漁船隊が浮かばせられ，そのため1956年の春から日ソ漁業交渉を行わなければならなくなり，また1956年と1957年の漁期にそれら漁船がアリューシアン列島の北側のベーリング海に乗り出してベニサケの漁獲に努めたため，両年にブリストルベーの河川に来ると予測されたベニサケが激減し，そのため少くも30年前から行っている調査研究と保護の努力が水泡に帰するとて，米国から1957年の秋に抗議を受けた．1958年の春にはジェネバで海洋法制定に関する国際会議が行われた．日本においてこれらの事件に関して報道されている新聞の記事と論説は，中央のものも水産業界のものも，筆者はその主なものを全部検討した．その結果得た結論は，記事の方面では，それらを書く人たちが概して日本人の行っている海洋漁業の実状についての知識にとぼしく，いわんや外国の歴史と現状についてはほとんど全くの無知であること，言論の方面においては，「外国のことは知らない．日本はこうであったからこうだ．現在もこうであるからこうだ」とのみ強調されていることであった．それ故これによって日本人が客観的に啓発されるところは一つもなく，またこれを読んだ外国人に対しては，その論拠に国際的客観性が全然ないために，言論としての効果がゼロに近いであろうと信じられることである．それら論説の特長は，それは論説というに値しないものが多いのであるが，海洋漁業の実体に触れること全然なく，手近の敗戦講和条約，または日本人の経済生活にだけ関連せしめられていることである．これら「世論」を分析して研究した結果筆者が最近確実に得た知見は，これら記事や論説を書く人たちが，「公海自由」について，その真正の意義とはかけ離れた観念を持っているということである．従ってそれにもとづいて書かれていることが，客観的にはすべて誤ったもの，または片寄ったヘンなものとなっている．新聞の持つ力は偉大であるから，この誤りによって新聞を読む全部の日本人が誤りまたは一層の片寄りに陥っている．これは実に重大なことである．本文の初めに紹介した論文においては，この語が正しく使われている．かように正しくこの語を使う人は自由な立場に立つ人に限られる．学者であっても正しい使い方と，日本人式使い方とをぼやかして使っている．それが日本という国の現状である．現在果してそれが真に利益となっているか，ことに将来はどうかは別問題として，「わが国の利益のため」には「公海自由」はかくあらねばならぬという意識と熱望が集積結晶された用語法が行われている．ところが真正の意味の「公海自由」はいっこう侵されていないのである．この違いを意識して事件の発生と経過を眺めれば，違った感想が湧き，現実に処して明るく善処しょうという気持が起るべきであるのに，そうでないから，「公海の自由」を侵す何国は悪い，何国も憎いという「排外思想」ばかりいやが上にも高められている．その一例は米加発案の「漁業抑止原則」に賛成したアジア諸国を憎む潜在意識である．

「いわゆる海洋自由」と真の「海洋自由」

「領海の幅は3カイリである．その外側は公海である．世界のすべての公海においては，海洋のいかなる生物も，その種類と数にかかわらず，自由に捕獲し漁獲することができる」（実際には，これより以上の潜在意識が伴っているが，それに言及することは文書の上では控える）というのが日本の新聞を書く人たち．従ってそれを読む全部の日本人によって持たれている観念の内容であると見られる．これを私は「いわゆる海洋自由」と呼ぶことにする．日本人のすべてはそういうものが存在していると思っているが，実は，それは存在していると思わせられているだけである．日本という国が，今においても，それが存在していなければならないと，主張しているだけの観念である．国は自国の国民に対してこの観念を押し付け，国民はまた国に対してこの観念の強行を要望するから，国は外国に対して強硬に主張する．日本の国民だけはその主張を正しいと信じている．客観性のあるものでなく，全く主観的なものである．しかも日本人はそれが客観性のあるものであると信じていることが強烈である．これに

関して私は，それは存在した時代もあったが，いまは存在していないと断言する．日本について，いつからそれがなくなったかというと，私は1937年ころからと見る．その理由は，日本はそのときは参加しなかったが，1937年6月8日にロンドンで国際捕鯨取締協定というものが調印された．ひとたび「鯨族という大きな天然資源を将来の世代のため保護することが，世界の諸国の利益であることを認め，その捕獲を適当に取り締る」ことを世界の国々が約束しあえば，たとえその条約に参加しなくとも，その趣旨は日本を含む他の国々を道徳的に規制することとなる．いわんや日本はこの条約の立案にもたずさわっていた．この歴史的重大事件によってある公海の水域では捕鯨のため母船を使用することが不可能となり，ある体長以下のクジラは捕獲することが控えられるようになった．それと等しく重要な出来事は，当時一部の日本人はそれより数十年前から科学的調査研究を行ってそれにもとづく保護の措置が強く実施されていたベーリング海ブリストルベー水域のベニサケを「いわゆる公海自由」の原則から，何らの悪意なく沖取りによって漁獲しようと目論んだ．これがアラスカの漁業者を激こうさせた．そこで日本政府はその着業を許す前に1935，36，37年の3ヵ年にたわる3ヵ年の継続調査を行うことにして，調査を開始した．けれども米国人の反対が余りに強いので，1ヵ年で中止することを声明した．これによってサケマスの漁獲は北太平洋の一角で「自由」ではなくなった．以上のごとく「いわゆる公海自由」は1937年を境として日本人に関してもその影を没したが，日本以外では，ヨーロッパの漁業国同志の間，それらと北アメリカの諸国の間，および北アメリカの諸国同志の間で，それよりはるか以前から，いろいろと漁業の操業を規制しあう条約や協定が取り結ばれていて，無制限無差別な漁獲の自由は失われていた．日本人だけがそういう経験を持たなかった．かえって日本においては，漁業条約といえば他国の領土でその国の人と同じ立場で，ラッコ，オットセイを除くすべての水産生物を漁獲し採捕することができるという他に類例のない旧日ソ漁業条約だけが意識されていた．これが日本人の心理構成に絶大な影響を与えた．

然らば「いわゆる公海自由」に対し真の公海自由とは何であるか．国際法から厳密に言えば，「公海自由の原則」が唱えられたのは17世紀であるが，この語は「公海というものは何国の主権にも属しない海の部分である」ということを現わしただけである．魚を取ることができるとかできないとかいう観念より以前の，公海の性質を現わしたものである．これに伴って「公海使用自由の原則」が唱えられ確立した．これは前記の原則に基き，公海における漁業，通商調査行為等が自由であるということを表わす．これら二つの言葉は本来区別しなければならないものが，混用せられている．基本の原則は航行が自由であるということである．1937年12月発行「新法学全集」第19回配本，大沢　章「国際法」における公海の定義は「公海とは国際法団体の領域として，総ての者に対し航行の自由が保障せられる海洋の部分をいう」とあって，これが記憶されるべき自由の本体である．中世にはある広い海域に外国船の航行が許されないという観念も行われた．17世紀には英国が航海中の外国船を臨検する特別の権利があると主張した．かようなことを非としたのが公海自由の原則である．重複するが，この原則が確立されたために「公海使用自由」の原則が派生した．世間ではただ公海自由という言葉が使われていた．この言葉の混用は致し方ないとして，何が自由であるかの内容が問題なのである．原則によって漁業のため絶対に無差別無制限に公海が使用された時代は，世界を通覧すれば長いことはなく，日本に関連しても1937年頃までに過ぎなかった．同じ著書でなお領海の範囲とその決定の標準について，『現在の国際法においては，その最少限度を3海里とすることについての国際慣習が確立していると云える』『3海里が不十分である以上，考慮せらるる改訂の方法は二途を出でない．その一は領海そのものの範囲を拡張することである．……ヘーグの国際法編さん会議においてもこの点に関する議論は一致を見るに至らなかった．その結果として採用を見るに至った方法は，領海に対する補充的水域を設定するという妥協的性質のものであった．』とある．以上によって明らかなように，真のものでない「いわゆる公海自由」はそれを抱くというよりは，夢みている者の「過剰意識」そのものに過ぎない．それは日本人が夢みているから日本の「国民感情」の一つであるに過ぎない．ヘーグの会議は1930年であったから，そのときの客観世界と現在との間の年数（実は大戦後のテンポは1年が昔の1年ではない）を「時代錯誤」の尺度として計算することができる．

## 抑止にあらざる国際漁業条約なし

今はなき1928年の日ソ漁業条約，現行の英ソ漁業協定のごとき領海使用を認める趣旨のものを除き，およそ漁業に関する国際協定で大なり小なり自制，抑止の観念の伴わないものはない．本年の海洋法会議で米国とカナダが持

ち出して成文化しようと試みた抑止原則は，第四委員会で38対17票という大きな開きで賛成を得たにもかかわらず，総会議では棄権が出て否決された．「いわゆる公海自由」を信じている国民の公式の代表者である横田喜三郎博士は，この原則を評して「水産資源の保存措置というよりも，その独占を図るもので，理論的にも実際的にも正当なものといえない」（朝日新聞）と書いているが，私にはそれこそ日本の国民感情をぶちまけた以外の何ものでもないと思われる．理論はとぼしく，実際の根拠は皆無だろう．日本においては，この莫然とした博士の報告に狂喜し，すべての新聞のすべての記者は「いわゆる公海自由」は依然として客観的に正しいものであるとの証拠を得たと思うらしく，ことに最近においては，これを根拠として米国およびカナダに「反撃」を加えようといきまいている．日本の国民感情は日本においては正しい．ニュースに狂喜したのは当然と思う．しかしこれを機会に，前記のごとく米加に賛成したアジア諸国を憎み，さらに米加に「反撃」を新たにしようと公言するに至っては，その客観世界への逆行性ぶりにただ驚きの目を見張るばかりである．

結　　　び

本文をさらに要約すれば，日本においては「公海自由」の語が全く主観的に特別に過剰に意識されている．「公海自由」の真正本来の意味は公海の航行の自由である．これを制限している国は世界に一つもない．日本人が意識している「いわゆる公海自由」は現在においては存在していない．日本人に関して，それがなくなったのは1937年頃からと認められる．しかるに日本人は両者を混同しているから，真の「公海自由」が1959年からなくなると思い，暗い気持に襲われている．しかし真の「公海自由」は現在損われてもいないし，永久に損われることのないものだ．それゆえ暗い気持を至揚して，追い払うべきである．

以上の如くであるが，私は日本の海洋漁業が国際の広場において永続的に円満に発展することを心から希望しているものである．そして，それは着実に発展していくことが確かであることを確く信じている．その理由の詳述は略するが，最大の理由の一つは公海資源の科学的調査研究が真剣に行われつつあることである．科学的調査のもっとも遅てれいた部門においても，それが真剣に考えられるようになったことである．これによって道義的に世界の海洋漁業界を指導する素地が築かれつつあることである．この意味において鮪漁業研究会の菅野会長が本誌の1958年新年号において，鮪資源の愛護を第一のモットーとして掲げられたことが常に想起され，常に絶大な敬意を抱いていた．ここに菅野会長にその敬意を心から表明するとともに，直接調査の実際に当られている会員諸氏に対しては，本誌に関連して外国から寄せられている深い感謝の意を謹んでお伝え申しあげる．

（1958年6月2日）

暑中御伺い

海上電機株式会社三崎出張所

三浦市三崎町仲崎187
TEL（三浦）2543・3431

㊌ 三崎沿岸漁業協同組合連合会

会長　宇田川勝次

神奈川県三浦市三崎町西野92
TEL（三浦）　市場部　3408・2211・2030
　　　　　　冷凍工場　3406

申し上げます

＝1958年盛夏＝

# 東部太平洋 0°～10°S, 140°～110°W 付近のキハダとメバチの漁況変化及び資源分布

会員　中込　淳（神奈川県水産試験場）

## 1. 緒　言

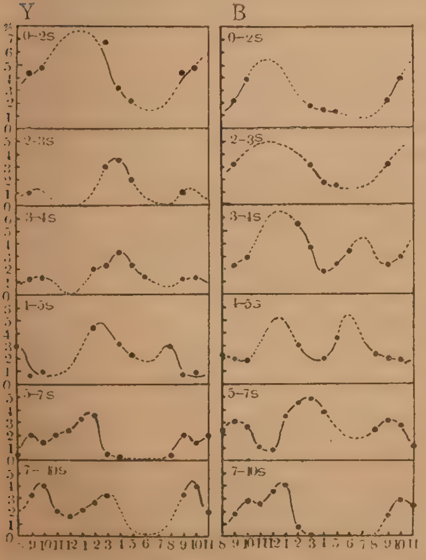
私は過日東部太平洋赤道付近のマグロ類について，各緯度毎のおおまかな漁況変化と8～10月の資源分布について報告したが，同報告中で，漁況が海域により複雑な差をみせているので，小範囲に於ける詳細な検討が必要であることを述べた．その後0°～10°S，140°～110°W付近のキハダとメバチの漁況変化を調べたところ，更に細かい緯度間で漁況変化が異なることを見出だした．しかして，この結果は業者にとってかなりの参考になると思うのでここに報告する．

調査，発表に当り御指導，御鞭撻下さった神奈川県水産試験場永井場長，又，資料を提供下さった漁船43隻の船長，漁撈長，調査員及び航海士の各位に対し衷心より謝意を表する．

## 2. 資料及び方法

資料は，昭和31年8月から33年4月迄の全資料43隻の鈎数とキハダ及びメバチを緯度及び月により細分し，これを年に無関係に緯度，月毎に合計して，これから平均釣獲率を算出し，緯度別の漁況周年変化を出した．又，これを因にして各時季の資源の分布を考察した．

図1　キハダ，メバチの漁況緯度別周年変化
Y；キハダ　……推定線
B；メバチ




## 3. 結果及び考察

緯度別の漁況周年変化は図1に示す．

この図から明らかな様に，0°～2°S，の漁況周年変化はキハダとメバチの間にあまり大きい差はなく，10～3月乃至10～1月が好漁であるが，他緯度はキハダとメバチで全く異なる．

キハダは0°～2°Sが11～3月，2°～3°S，3°～4°Sが3～5月，4°～5°Sが1～4月で8月が稍，5°～7°Sは9～2月で特に1～2月，7°～10°Sは9～10月と2～4月が好漁である．

メバチは0°～2°Sが10～1月，2°～3°Sが9～3月が好漁で同変化，3°～4°Sが11～2月と6～7月，4°～5°Sは12～1月と5～7月が好漁で同変化，5°～7°Sが1～4月が好漁，3～10月が稍好漁，7°～10°Sは10～1月が好漁である．

この漁況周年変化から資源の分布を推察すると次の様になる．

先ず，キハダの0°～2°Sとメバチの0°～3°Sは10月から2月にかけて好漁であるが，この期間は赤道付近のガラパゴス島から140°W線にかけて連る湧昇流[2)3)]が弱いので[3)4)]魚群が赤道近くに集まるために生ずる現象であり，キハダの2°～5°Sが2月から6月，メバチの5°～7°Sが2月から5月と8月から10月にかけて好漁であるのは，3～9月に湧昇流が強くなり[3)4)]，魚群が高緯度に押されるためと考えられ，（図2）メバチに於いては藪田[3)]の報告と一致する．

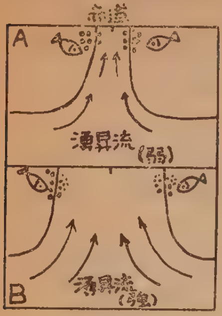
次に，キハダの5°～10°Sは9月から3月に好漁，メバチの7°～10°Sも9月から1月に好漁であるが，これは，西南部太平洋[5,6)]と同様，10月頃から3月頃にかけて明瞭に出現する10°S線の潮目の影響により魚群が集まったため

ではないかと考えられる．従って潮目がうすらぐと共に魚群も消滅している．

メバチの3°〜5° Sは12〜1月と6〜7月が好漁で，3〜4月に一旦不漁となっているがこの点は疑問である．

従って，キハダは9〜3月は0°〜2° Sと5°〜10° Sに，2〜6月は2°〜5° Sに分布し，メバチは9〜3月は0°〜5° Sと7°〜10° Sに，1〜5月と8〜10月は5°〜7° Sに，6〜7月は3°〜5° Sに分布するものと推察される．

図2 湧昇流の弱い時(A)と強い時(B)の南北断面図




文　　献

1）中　込　　淳：鮪漁業　46，P.31，1958.
2）タウンセン・クロムウエル（古川鈊三郎訳）：鮪漁業　38，P.16，1957.
3）藪　田　洋　一：昭和32年度鮪漁業研究協議会にて要旨発表，1958.
4）神水試漁撈部：鮪漁業　41，P.29，1957.

## 相模丸の米国太平洋水産研究所見学報告より

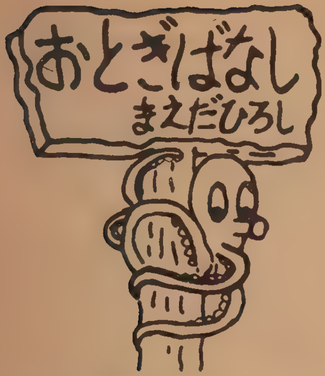
（神奈川県指導船相模丸は去る7月9〜12日第3次航海の帰途ハワイに寄港船長等は同研究所を訪問視察した）

本研究所は米国内務省の Fish & Wild-life Srvice に所属し中部太平洋に於ける海洋調査，かつおまぐろ等の研究を行っている所であるが建物設備等は極めて充実した立派なものであり，日本の研究所などよりは遙かに恵まれた環境で研究を行っている．調査船は二，三百屯級が二隻ありこれにより常時調査航海を行っている．研究所長のマーフィー氏から研究所の話や研究室に案内されたりしたが，かつお，まぐろの生物調査，資源調査，標識放流プランクトン稚魚の査定，海洋調査，塩分検定等研究内容は日本の研究所とほぼ同じようであった．資源の問題については米国沿岸では資源量の減少は認められないと云う見解をとっているようであり理由については毎年の全漁獲高がほぼ平均しており一隻当りの漁獲高は減少しているが，それは全体の漁船数が増加したためであるという意見で日本漁船の乱獲という問題については非常に憂慮すべきことであるという考えをもっているようである．

標識放流はかつお，びんちょう等を行っているが非常に多数の放流をしていてハワイ諸島付近の再捕結果による洄游図が出来ていた．まぐろ類についてもサンフランシスコの研究所と共同して標識放流を行っており，その数は約2,000尾に達しているが現在までに再捕されたものは10尾でかつおの再捕率10%位であるのに0.5%という低率で正確な洄游系路はつかみ難いらしい．これらの大部分は日本近海で再捕されたものであるが，日本側の放流魚で再捕されたものは全くない現状であるが，今後共日本側の協力を要望していた．標識の改良についても意を注いでいて最近では背鰭付近に突き刺す標識を使用しているが，これを更に改良して取付けの際に使用する針（ニードル）を必要としない先端を硬質ビニールとした標識を試作していた．

研究所の岸壁近くにある漁具格納庫を見学したが，延縄漁具及び餌料用その他の旋網等が収納されていたが殆んどがナイロン製品である．餌料用旋網は日本製品で綿糸20番18〜24本撚の文字網で延縄用餌料のサッパ等を漁獲するためのものである．

この研究所の調査船で現在使用している延縄漁具はその構造は日本のものと大差ない．幹縄及び枝縄は綿糸及び合成繊維を使用しタール染等も実験しているようである．一般に撚りは少く日本漁船が使用するものより径は太い．一鉢の長さは約261尋で対称魚種により枝縄の数が異り標準は6本であるが，びんながの場合は13本その他のまぐろ類の場合は11本でテストしている．枝縄には日本漁船のせきやまの部分がなく，長さ約3尋で釣元ワイヤはステンレスであった．各房の接続部は両端に撚戻しのついたステンレスワイヤーを使用し枝縄につけてあるスナップの取付を容易にしてある．このスナップは浮縄にもつき幹縄との連結を便にしている．枝縄は1本づつコイルし箱の中に収め投縄時取付ける．この構造は一般の漁船（10〜15屯）では未だ使用していないが，ワイヤーブライドル部及びその撚戻はサイドローラー，ラインホーラーを過ぎる時の張力及び歪みに対してはその強度及び構造は感心出来ないのではないかと思われる．




## 一番大きい魚は……

エイは西洋では，デビル・フイッシュ（悪魔の魚）とよばれ，海の怪物として伝説によく出て来ますが，日本でもフカやマグロとちがった意味で無気味な大きさをもった魚にされています．

どれほど大きいか——次のようなお話がつたわっています．

むかし，ほうおうという鳥がいました．ほうおうがとぶと夜になる——大きな羽をひろげると空が一面かくれてしまうのでそういわれたのでしょう．このほうおうが自分より大きいものを捜し出そうと旅に出かけました．山をこえ，海をわたり，さすがのほうおうも羽が疲れたので休む場所を捜していると，海の上に大きな枯枝の出ているのを見つけ，それにとまりました．すると枯枝がゆらゆらするではありませんか．

「世界で一番大きなおれがとまればこのとおりさ」

と，いよいよ慢心のところへ

「だれだ！わしのヒゲにとまるのは！」

それは大エビのヒゲだったのです．自分より大きいエビをみたほうおうはすごすごと逃げました．

ほうおうのうぬぼれをきいていたエビが，こんどは大きいもの比べの旅をひきつぎました．いけどもいけども自分より大きいものに出会いません．泳ぎつかれたので二つ並んだ大きな穴に一休みしようともぐっていきました．すると，

「ハ，ハ，ハックション!!おれの鼻の穴に入るのはだれだ！」

それはエイの鼻の穴だったのです．どんなにエイが大きかったか——．クシャミではねとばされたエビは入口の岩でいやというほど腰をぶっつけ，それから腰がまがってしまったということです．（山口県各地にて）

## チヌとカレイ

カラスは天びん棒や竹をかついでそばにいっても逃げませんが，鉄砲をもっていると遠くからでもかぎつけて逃げてしまいますのでかしこい鳥とされています．

「山のカラスと海のチヌ」といわれるようにチヌはすばしこさにかけては魚中でかなうものはありません．チヌが網を上手に逃げまわるのをうらやましく思っていたのろまなカレイがある日たずねました．

「おまえさん，どうしたらそんなにうまく網から逃げられるのかね」

「フフン，そうさね，網の近くまでいって急にからだを横にかわすのさ」

と答えながらするりと網を通ってみせました．

「なーんだ，そんなことか，ひとつおれさまもやってみるか」

平らたいからだをしたカレイがそのまま真似たのでたちまち網にひっかかってとられてしまいました．

（山口県矢玉（やたま）・埴生（はぶ）にて）

# 業 界 メ モ

1958年7月～8月

**7月1日　濠州南方海域の調査**

農林省水産講習所（下関市）では来る9月完成予定の大型練習船耕洋丸（1.200トン）の処女航海について検討をしていたが，この程ニュージーランド西方のタスマン海から濠州南方海域の漁場調査を行うことにきめた．尚同海域はいままで一度も調査されていない．出港は10月下旬の予定．（水経）

**7月15日　エニウエトク海域全船舶に警報**

海上保安庁ではエニウエトク島西方百カイリ付近からの同庁調査船拓洋（900トン）の報告で同方面の放射能が相当濃い模様なので15日正午全船舶に航行警報を発した．報告では放射能は海水で3万7千カウント（14日午後9時）雨水では10万カウントに達したと云う．拓洋は急いで南方へ退避，15日朝危険区域を脱した模様である．（朝日）

**7月26日　相模丸帰る**

米国太平洋岸の新マグロ漁場開拓に向っていた神水試　相模丸（700トン）は25日キハダ，バチなど約6万2千貫を積んで三崎港に帰って来た．同船は4月2日出港南緯3度13分—13度，西径133度—118度の海域で操業したもの，同漁場は1日4千貫から7百貫くらいでムラが多い．これは5月—8月の端境期だったことやシャチが多いため魚が分散してしまうことなどが原因とみられる．漁獲物はキハダが多く魚体は大きい．なお同船は帰路ハワイへ寄り太平洋水産研究所を見学してきた．（毎日）

**7月26日　マグロ相場持直す**

しばらく不振をかこっていたアメリカ向けマグロ類の輸出価格は最近ようやく持ち直してきたため三崎漁港の輸出関係筋では活気を見せはじめた．大洋漁業三崎営業所の話だと今年は最も輸出量の多いビンチョウが不漁のため今冬1トン当り280ドル（102,200円）だったのが現在350ドル（127,750円）と高値を示したのをはじめ同270ドル（98,550円）の安値で赤字輸出だったキハダマグロも290ドル（105,850円）まで持直し今後も見通しは明るいという．

（毎日）

**8月1日　菅野会長空路米国へ**

遠洋漁業代表として焼津漁協組の滝口専務と共にアメリカの漁業調査に赴くことになった神奈川県鰹鮪漁業者協会長菅野進氏は今夕午後10時羽田から日航機でホノルルに向う．菅野氏は約42日滞米，サンフランシスコ，ロスアンゼルス，ニューヨーク，ワシントンその他各都市で日本鮪の流通関係，加工冷凍工場などを視察して9月12日帰国する予定．（港報）

**8月7日　鮪漁業講演会の開催**

鮪漁業研究会並びに神奈川県鰹鮪漁協組，同漁業者協会共催の鮪漁業講演会は7日午前9時から県水試講堂で開かれ盛会であった．　講演題目及び講師は 1.北部太平洋のビンナガとメバチ　南水研　須田技官 2.南太平洋の漁場　同　上村技官 3.インド洋の漁場　同　三村技官 4.マグロ漁況予察の問題　同　中村所長

## 鮪類標識放流について

◇昭和33年6月16日から7月15日迄に標識の委託をなした船数は3隻（70本）である。

| 月　日 | 委託船名 | 標識番号 |
|---|---|---|
| 8．9 | 永　代　丸 | X0071～X0120 |
| 〃 | 船　川　丸 | X0131～X0140 |
| 〃 | 8崎　吉　丸 | X0121～X0130 |

# 本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌「鮪　漁　業」第6—52号（第1—5号品切）{第6—28号各100円　第29—52号各150円}　郵送料16円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）

1　部　　300円　　（B 5 判 150 頁）　　郵送料　24円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）

1　部　　400円　　（B 5 判 226 頁）　　郵送料　40円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）

1　部　　300円　　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）

◇上記の昭和28年度、29年度、30年度分3冊一括購入の場合 特価 800 円（送料共）

鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月）

1　部　　300円　　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）

鮪 漁 船 操 業 図（航走距離早見表、鮪類年令体長体重表刷込）

1　枚　　50円　　郵送料　8円

鮪　漁　場　図（32海区劃に表示したもの）

10　枚　　100円　　郵送料　16円

鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月）

1　部　　300円　　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

## —— お　願　い ——

◎大変恐縮ですが昭和32年分会費（1,700円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜 1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止することに致しますからお含み願いあげます。

◎昭和31年度版鮪類水揚地調査報告が出来上りました。限定出版のため残部僅少でありますが御希望の向は御申込下さい（上掲参照）。

鮪　漁　業

1958年8月号

昭和33年8月10日印刷
昭和33年8月10日発行

監　　修　　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　　菅　野　　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発　行　所　　鮪 漁 業 研 究 会
（振替貯金口座 横浜 1 4 7 2）

暑

大洋漁業株式会社

三崎営業所　所長　長崎勝平

三崎営業所　神奈川県三崎市仲島190　電話三浦（代表）2151・2774
本　社　東京都千代田区丸ノ内1ノ4新丸ビル6階
電話千代田（27）代表1041・1241

船具漁具　海洋調査測器・舶用計機械・理化学機器・漁業資材

日本民衆産業株式会社三崎出張所

神奈川県三浦市三崎町仲崎86　電話（三浦）2505・3503番
本　社　東京都中央区日本橋室町3ノ3番地　麻綱会館内
電話　日本橋（24）0782・5615番
下関営業所　下関市西細江町（市民館内）

御

中

日本無線代理店

三崎日本無線

神奈川県三浦市三崎町日の出　電話（三浦）2888番

村松印刷株式会社

本　社　横須賀市大滝町2ノ15番地
電話　横須賀　254・957番
横浜工場　横浜市金沢区六浦町4033番地
電話　金沢（7）9992・9993・9131番
東京工場　東京都江東区深川高橋3ノ21番地
電話　本所（63）2021・3743番

伺

1958

大都魚類株式会社

代表取締役　林　誠次

本　社　東京都中央区築地5ノ1
電話　築地（55）9013番
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町仲崎190

相原写真製版所

相原四郎

横浜市南区弘明寺190番地
電話　長者町(3)116番

鮪漁業研究会

会長　菅野進
副会長　四宮秀雄
専務理事　伊藤順男

神奈川県三浦市三崎町向崎　電話 2338・3218番

暑中

御伺

— 1958 —

合名会社 香山角太郎商店
代表社員 香山角太郎
神奈川県三浦市三崎町西野67番地

有限会社 西松商店
代表取締役 湊 勝雄
神奈川県三浦市三崎港 電話（三浦）3227番

クレモナ・綿・鮪延縄・製造販売
系統鉱油・船用機器類取扱
神奈川県漁業協同組合連合会
三崎出張所
所長 野本 明
三浦市三崎町花暮157 電話（三浦）3430番

株式会社 山星船具店
神奈川県三浦市三崎町花暮125 電話（三浦）2965番

株式会社 東京商社
本社営業部 東京都中央区銀座西2ノ3中島ビル電話京橋(56)0664・5090・5091
経理部 東京都千代田区丸ノ内丸ビル759号電話和田倉(20)3451・3811
支店 静岡県清水市万世町2ノ34 電話清水(2)6431・6432
工場 静岡県清水市八千代町2ノ26 電話清水(2)1901

㊟ 住吉漁業株式会社
社長 四宮秀雄
神奈川県三浦市三崎町入舟62
電話 三浦 2603・2835番

暑中御見舞

# 神奈川県漁港協会

会長　鈴木十郎

神奈川県横浜市中区日本大通り　神奈川県水産課内

# 神奈川県漁業無線協会

会長　長崎勝平
主事　川崎淳一郎

神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎　電話三浦3218番

# 神奈川県漁船保険組合

組合長理事　矢板開一　外役職員一同

横浜市中区日本大通り1の1（神奈川県庁水産課内）
電話　本局（2）4921番

横浜ゴム製造株式会社
藤倉ゴム工業の代理店

# ヨコハマ屋

三浦市三崎港　電話（三浦）2824番

申しあげます

昭和三十三年盛夏

医薬品・船舶向薬品・一般医薬品

# 佐藤薬局

神奈川県三浦市三崎町
電話 花暮店 3577・諸磯店 2610

# 高級カメラ

現像
焼付
引伸

在庫豊富
外国製高級機
国産優秀機
その他カメラ交換月賦販売

は一日仕上の優秀な技術と設備を誇る当店へ

# アラヰ写真機店

【防衛大学校指定】

本店　横須賀市本町1ノ1（ロータリー角）電話600・2672番
営業所　三浦市三崎町上橋　電話2663番
売店　防衛大学校学生P.X.

暑

日魯漁業株式会社

本社　東京都千代田区丸ノ内2ノ2丸ビル4階
電話　和田倉　1851（代表）

柳下漁業株式会社

社長　柳下弥三郎

神奈川県三浦市三崎町日の出41
電話三浦 2520・2525・2530番

御

中

マルタカソーセージ・ツナハム
鮪漁業

丸高水産株式会社

本　　社　東京都中央区小田原町2ノ4
三崎出張所　神奈川県三浦市三崎町
工　　場　神奈川県三浦市通矢4番地

東貿易株式会社

代表取締役　石関自助

東京都千代田区丸ノ内2ノ2（丸ビル）
電話（20）4539番

伺

— 1958 —

株式会社
山口県漁業公社

株式会社
広島県漁業公社

神奈川県三浦市三崎町花暮141番地
電話三浦 2250 番

三浦市長

川崎喜太郎

暑

三崎魚類株式会社
三崎町魚商協同組合

神奈川県三浦市三崎町西野62
電話 三浦 現場 (代表) 2111 (代表) 2121
事務所 (代表) 2131〜3
役員室 2712・3206
製函部 2675

大物業会

会長 石宮北川宮蔵
副会長 古川古川正雄
同 鯉古支店 扇浦良男

事務所 東京都中央区築地5ノ1 東京都中央卸売市場内
電話東京 (54) 1171〜9・2171〜9・内線294

御

中

日本漁網船具株式会社

本社 東京丸ビル6階
電話和田倉 (20) 代表1841番
営業所 下関、函館、大阪、戸畑、長崎
工場 下関、函館、釧路、小樽
出張所 名古屋、釧路、小樽、仙台、札幌
油槽所 川崎、女川、下関、名古屋

営業品目 漁業用 合成繊維ロープ・コード
消防用 ジェットホース
伝導用 綿ロープ・スピンドルテープ・バード

芦森工業株式会社

取締役社長 竹村七郎 (資本金2億円)

本店 大阪市東淀川区元今里北通1ノ45 電話 (37) 1231番(代表)
支店 東京都中央区日本橋本町3ノ1 電話 (24) 2526・2857・7450

伺

— 1958 —

営業内容 綿・クレモナ 鮪延縄 綿撚糸 製造販売
倉敷レイヨン株式会社 クレモナ延縄指定工場

山田撚糸株式会社

本社工場 八尾市大字亀井 電話 (東住吉) 559・2113番
東京営業所 東京都品川区西戸越2ノ672 電話 (荏原) 6533番

クレモナ延縄

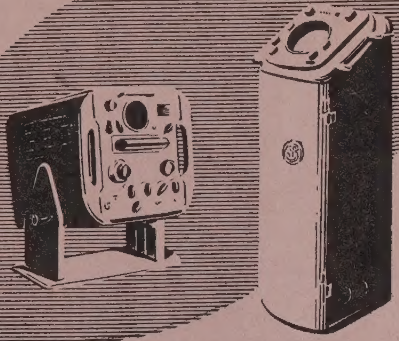
東京製綱株式会社

東京都台東区浅草橋2ノ3
電話浅草 (85) 代表8261〜8番

暑　中　御　伺　　　— 1958年盛夏 —


能率的な航海は
信頼出來る計器で

スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン

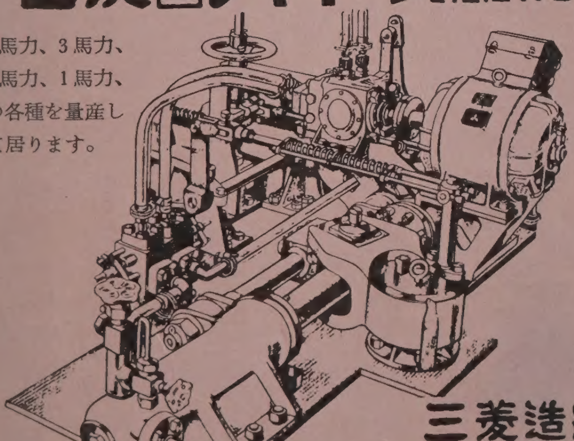


株式会社東京計器製造所
本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話 (73) 2211～9
出張所及びサービス ステーション　神戸．函館．長崎・横浜　名古屋．下関



漁船用
三菱小型ジャネー式電動油圧舵取装置

5馬力、3馬力、2馬力、1馬力、の各種を量産して居ります。



商船及び艦艇用として多年絶対的信用を博している三菱ジャネー式舵取装置を漁船用として小型化したもので既に数拾台以上が漁船に取付けられ好評を得て居ります。

三菱造船株式會社
本社　東京都千代田区丸ノ内2の4（三菱本館）
電話　東京（28）代表 5111．3111．0331

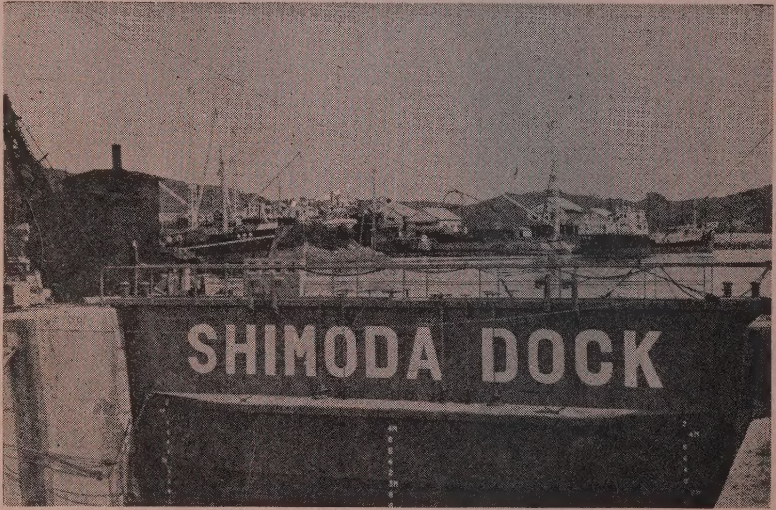
# 暑　中　御　伺

— 1958年盛夏 —

## 800屯ドライドック完成

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 船渠 | 大きさ | 長さ | 幅 | 深さ | |
| | | 59.15 米 | 14.0 米 | 6.6 米 | |
| | 入渠可能船舶 | 長さ(垂線間) | 幅(型) | 吃水(平均汐高線1.7米に於て) | 総屯数 |
| | | 57.0 米 | 11.0 米 | 4.41 米 | 800 屯 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 船台兼船架 | 建造又は上架可能船舶 | 構造 | 長さ | 総屯数 | 数量 |
| | | 4条軌条算盤式 | 50 米 | 500 屯 | 2 |
| | | 2条軌条式 | 50 米 | 250 屯 | 2 |




## 下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4—4 畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通),4121(代表)—2

## 紫綬褒章に輝やく
## 泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業 第五十二号 昭和三十三年八月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可